

JAPIA NEWS

2016
11・12

隔月刊
(通巻716号)

一般社団法人 日本自動車部品工業会

巻頭言

副会長・角堂 博茂

特集

新たな出会いの場を造る
部品メーカーから見た
学生フォーミュラ

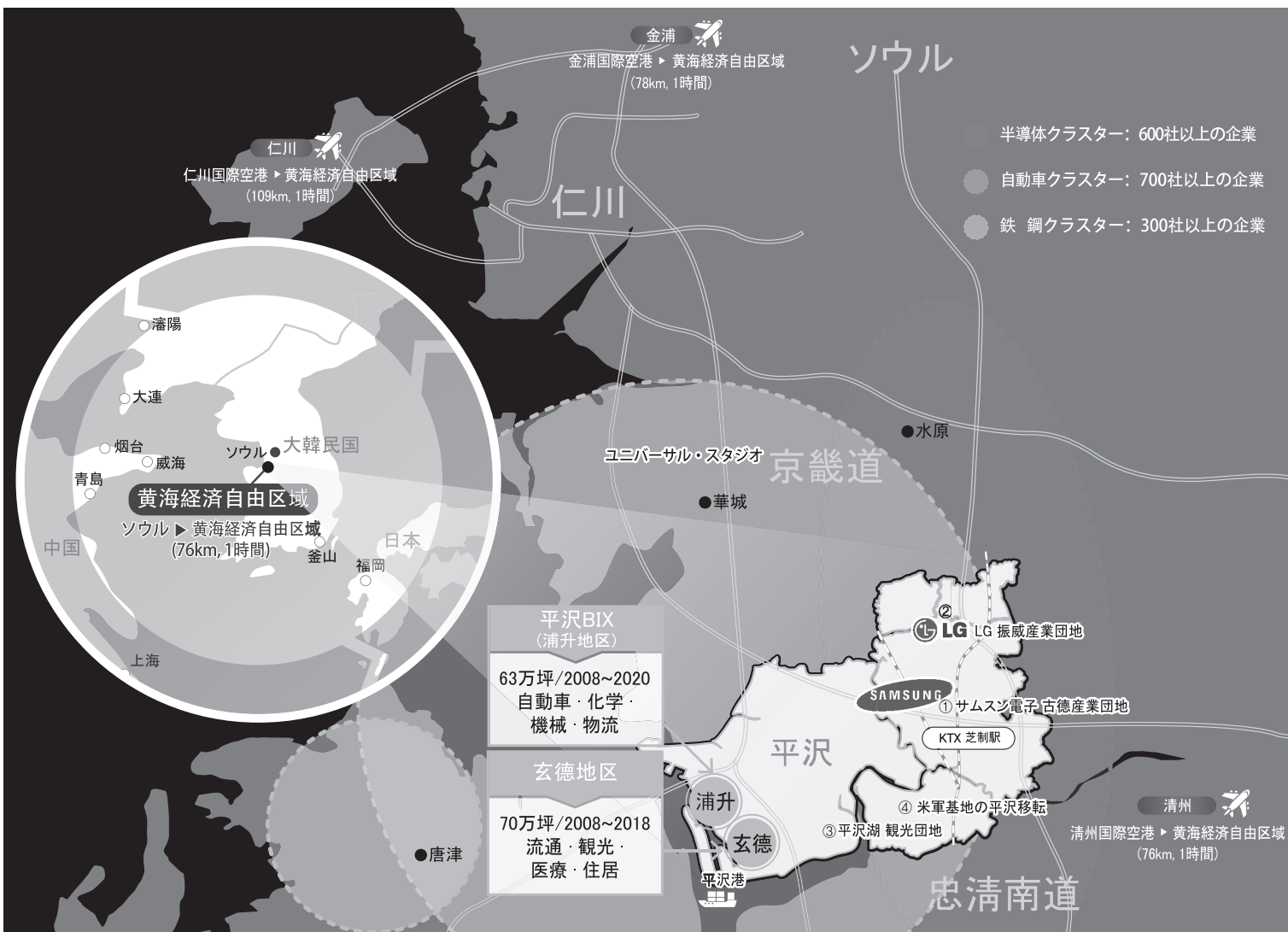
会員企業紹介

豊和繊維工業株式会社

支部活動レポート

中部支部

環黄海圏の中心 黄海経済自由区域



黄海経済自由区域 | 中国向けの輸出入前進基地。先端・成長産業の国際的な協力拠点

| 投資の長所 |

1. 先端産業クラスタの形成

- ▶ 自動車(現代起亜), 半導体(サムスン電子), ディスプレイ(LG), 鉄鋼(現代製鉄)クラスター
- ▶ 玄谷、魚淵・閑山など、近隣8つの外国人専用賃貸団地の分譲率 100%

2. 周辺における大規模開発

- ▶ 世界最大の半導体工場
(① サムスン電子 古徳産業団地, 2016. 9.)
- ▶ 機械・電子など、有望新産業のハブ
(② LG振威産業団地, 2017. 12.)
- ▶ 親水型グローバル観光リゾート
(③ 平沢湖 観光団地, 2021.)
- ▶ 東北アジアにおける最大規模の平沢米軍基地
(④ K-6, 2016.)

3. 巨大な国内外の背後市場

- ▶ 韓国人口60%の約3千万人が居住
- ▶ 1時間30分の飛行距離内に1百万人以上の国際的都市が50つ所在

4. 便利な交通インフラ

- ▶ 仁川国際空港・清州国際空港から1時間
- ▶ 平沢 芝制駅 → ソウル (KTX, 20分)

5. 豊富な優秀人材の宝庫

- ▶ 韓国における研究開発人材の51%, 半導体従事者の60%
- ▶ 首都圏に位置する117大学(全国の34%)

6. 中韓FTAの最大受益地域

- ▶ 中国の沿岸産業ベルトから最短距離に位置
(寧城から396km, 烟台から505km)
- ▶ 自動車による物資流動量において韓国トップ
である平沢港は、東北アジアの海上物流ハブ
に成長する展望
(2016年、63船席 → 2030年、92船席)



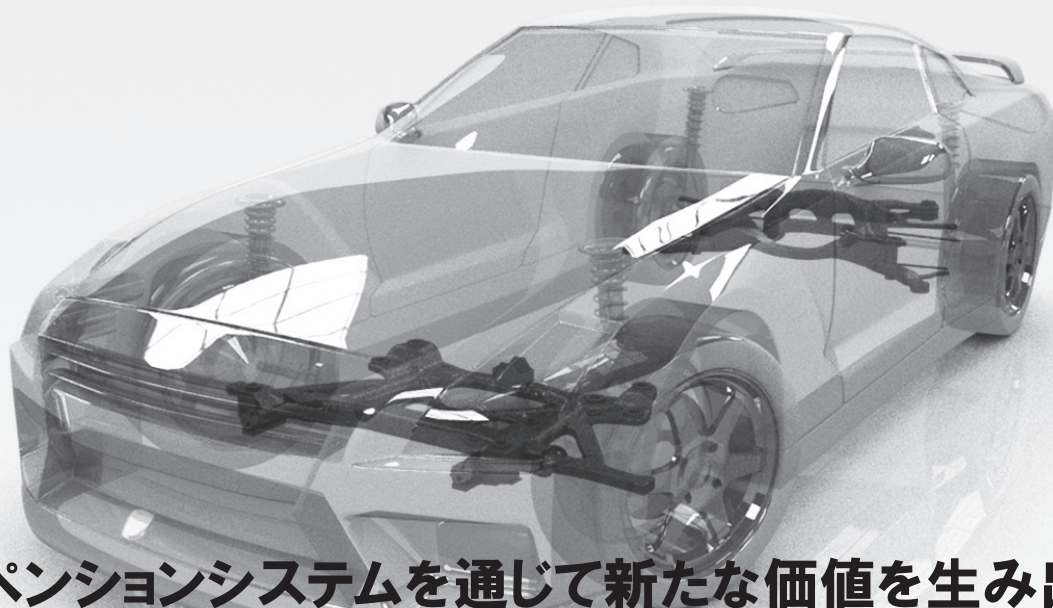
黄海經濟自由区域庁
 YELLOW SEA FREE ECONOMIC ZONE AUTHORITY

ウェブサイト | <http://yesfez.gg.go.kr>

投資相談 | +82-31-8008-8593 / 8632

YOROZU

Passion for Innovation, Drive for Innovation



サスペンションシステムを通じて新たな価値を生み出し、
“ヨロズブランドを世界に”

株式会社ヨロズ 〒222-8560 神奈川県横浜市港北区樽町3-7-60 TEL:045-543-6800 <http://www.yorozu-corp.co.jp/>

中国へ
アジアへ
シフトアップ!



ANA

大連・天津・武漢・広州・バンコク・ジャカルタ線
週206便[※]の輸送力

多くの自動車関連企業が、生産・物流拠点を置く中国・アジアと日本間の輸送をもっと早く、タイムリーに。
ANA Cargo なら、クルマの部品などの急な輸送にもスピーディーに対応します。

ますます広がるANA Cargoのネットワークを、お客様のビジネス戦略に合わせてお役立てください。

お急ぎならANA Cargoが、お応えします。

ANA Cargo

※旅客便と貨物便を合わせた往復の便数 (2016年11月4日現在)

東京 03-6735-1975 / 大阪 06-6450-9955 / 名古屋 052-586-9440

ANA CARGO

検索



AKEBONO

BRAKE EXPERTS

www.akebono-brake.com



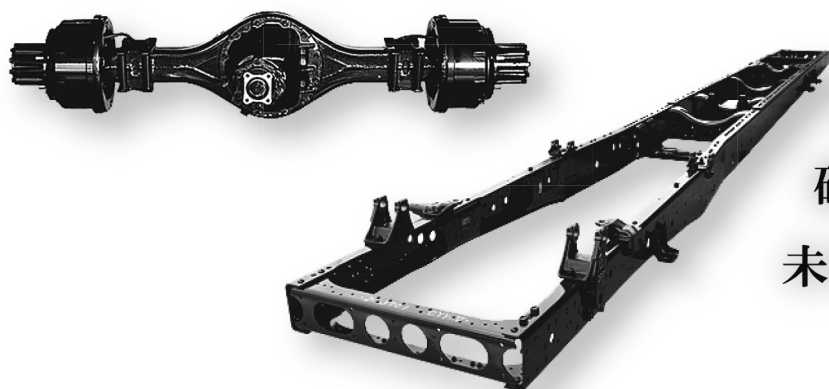


プレス工業株式会社

コア商品の世界 No.1 の実現

【チャレンジ 100】

業界トップのグローバル企業へ



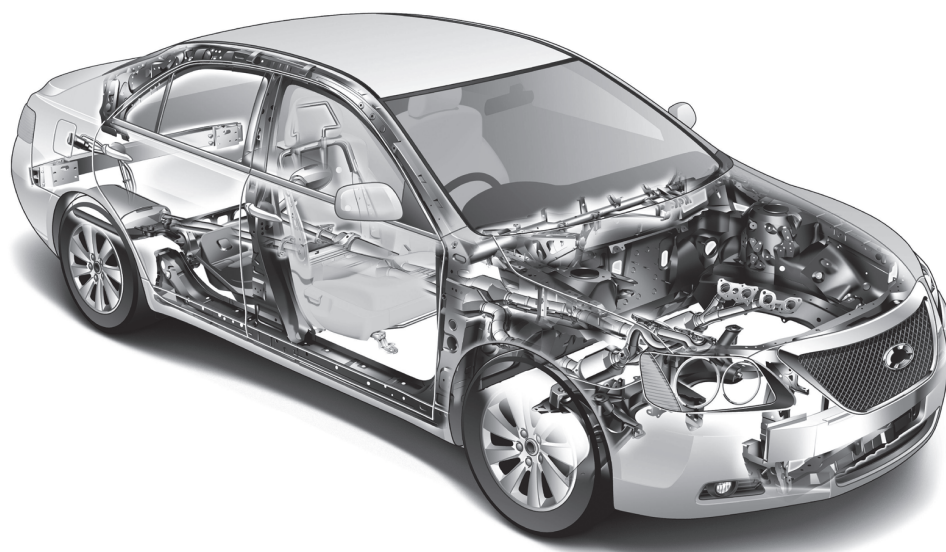
支える力のものづくり
確かな技術でものづくり
未来へつなぐものづくり

住所：川崎市川崎区塩浜 1-1-1

TEL：044-276-3901

URL：<http://www.presskogyo.co.jp/>

モノづくりで社会に貢献する。



フタバ産業株式会社

岡崎市橋目町字御茶屋1番地

Koito



安全を光に託して

株式会社小糸製作所

〒108-8711 東京都港区高輪四丁目8番3号
TEL: 03-3443-7111 (代表) <http://www.koito.co.jp>

人とクルマの安全は、わたし達の願いです。

小糸製作所は自動車照明分野のリーディング・カンパニーとして
これからも人と環境にやさしい製品を提供してまいります。

イワタボルトの グローバルネットワーク

国内

- ・栃木工場・一関・山形・仙台・福島・宇都宮・栃木
- ・上田・群馬・太田・埼玉・つくば・千葉・五反田
- ・多摩・横浜・湘南相模・富士・浜松・名古屋・刈谷
- ・三重・大阪・広島・福岡・久留米

海外

- ・タイ工場・シンガポール工場・オハイオ工場
- ・深圳工場・香港・上海・蘇州支店・武漢
- ・深圳貿易・深圳汽车零部件
- ・シンガポール・マレーシア・タイ・インドネシア
- ・アメリカ (ロサンゼルス・アトランタ・
オハイオ・ナッシュビル)・メキシコ
(グアダラハラ・ケレタロ)・カナダ



認定または認証取得一覧

	タイトル	認定・認証施設	取得No.	認定・認証機関
日本	ISO/IEC 17025:2005	栃木試験所	RTL00210	JAB
	ISO/IEC 17025:2005	技術開発課 IBラボ	ASNITE 0050T	IA Japan
	ISO 9001:2008	栃木工場・技術開発課	YKA200001	LRQA
	ISO 14001:2004	本社・五反田(営)・栃木工場	0772850	LRQA
アメリカ	ISO/TS 16949:2009	IWATA BOLT USA,INC	TS613385	BSI
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT USA,INC	EMS549810	BSI
シンガポール	ISO 9001:2008	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD	94-2-0318	PSB
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD	2004-0265	PSB
タイ	ISO 9001:2008	IWATA BOLT THAILAND CO.,LTD.	C2015-01314	PERRY JOHNSON
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT THAILAND CO.,LTD.	C2015-01313	PERRY JOHNSON
中国(深圳)	ISO/TS 16949:2009	岩田螺絲(深圳)有限公司	0079530	TÜV NORD
	ISO 9001:2008	岩田螺絲(深圳)有限公司	04100062166	TÜV NORD
	ISO 14001:2004	岩田螺絲(深圳)有限公司	04104062166	TÜV NORD

【IB】イワタボルト株式会社

〒141-8508 東京都品川区西五反田2丁目32番4号

電話 03(3493)0211(代表) <http://www.iwatabolt.co.jp/>

世界と日本! 自動車産業界唯一の総合年鑑

自動車年鑑 2016-2017年版 Automotive Yearbook

自動車産業の総合データ集。自動車産業、自動車社会など自動車に関する主要な動向全般を収録。

本誌は第1号の発行から85年の歴史を持つ自動車産業の総合データ集です。最新版では自動車の生産や販売、保有に関するさまざまな統計データをはじめ、自動車メーカーを中心とした国内外の動向、新型車情報などを収録。国内の各地域に密着した情報を拡充したほか、主要団体・企業のトップ交代情報では総勢150人以上のニューリーダーを取り上げています。また、同梱の別冊名簿「The List」は誌面レイアウトを大幅にリニューアル。ウェブサイトから電子ブック形式で閲覧できるようにいたしました。



好評発売中

日刊自動車新聞社 共編
一般社団法人日本自動車会議所

定価 21,600円 (2冊組・分売不可)
(本体価格20,000円+税、送料無料)
B5判 約760ページ

主な編集内容

本編

- ◎巻頭企画
「次代に向けて加速する自動車メーカーの提携」
「変化をみせるパワートレイン戦略」
- ◎2015～2016ニューモデル
- ◎ザ・ニューリーダーズ
- ◎自動車産業日誌
- ◎日本と主要国の自動車産業
- ◎国内自動車販売・サービス
- ◎都道府県の動向
- ◎自動車産業と行政 など

統計・資料編

- ◎日本メーカーの主要経営指標一覧
- ◎役員・経営陣一覧
- ◎国内主要事業所、車種別最終組立工場一覧
- ◎海外主要拠点、出資会社
- ◎新車販売台数推移
- ◎メーカー別中古車登録台数
- ◎国産車ディーラーの概要
- ◎主要国の自動車生産台数
- ◎自動車部品出荷金額の推移
- ◎自動車関係諸税率の概要 など

日刊自動車新聞社 お問い合わせ ☎03-5777-2308 お申込用 ☎0120-461-490

インターネット書店 ～NJD-BOOKS～

URL <http://njd-books.online-store.jp/>

当社発行の出版物をインターネットでお求めいただけます。支払方法もクレジットカード(VISA/MasterCard/JCB)・銀行・郵便局と各種選択できます。ぜひご利用ください。

【申込書】

申込日 平成 年 月 日

自動車年鑑2016-2017年版

冊

〒	
ご住所	
ご社名	
部署名	
ご担当者	
お電話番号	
FAX番号	

請求書添えて、お送りします。

お客様にご記入いただいた個人情報は、当社において適切に管理いたします。また当社から商品・サービス等に関する各種ご案内をさせていただきます場合がございます。

巻頭言

Introduction

チーム自動車部品 工業会として 会員目線の活動を推進



一般社団法人日本自動車部品工業会
副会長・角堂 博茂

〔プレス工業 取締役社長〕

会員の皆様方におかれましては、日頃より自動車部品工業会の活動にご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

今年5月に自動車部品工業会副会長及び関東支部長を拝命いたしました。微力ながら皆様と共に自動車部品事業並びに当工業会の発展に尽くす所存です。

この夏、ブラジル・リオデジャネイロで開催されたオリンピック、パラリンピックでの目覚ましい日本人選手の活躍は皆様の記憶にも新しいところかと思えます。今大会で日本が獲得したメダルの総数は、オリンピックで史上最多の41個、パラリンピックで24個と共に前回のロンドン大会を上回る好成績をあげました。

この大活躍の要因のひとつが「チーム力」といわれています。団体競技だけではなく、個人競技においても「チーム力」が結果につながっているところが大きなポイントかと思えます。

コーチ・スタッフ間、選手間、そして選手とコーチ・スタッフ間のコミュニケーションを活性化し、チームワークを高めることで、競技に多くの好連鎖が生まれました。「競技を越えて、みんなで日本のスポーツ界を盛り上げていこう」という「チームジャパン」の意識。「ライバルでありつつも、切磋琢磨し互いに強くなっていこう」

という、個人競技者としての意識。「選手、コーチ、スタッフらが心をひとつにして最高の役割を担おう」という役割の意識。これらの相乗効果で、選手一人ひとりが孤独や重圧をはねのけ、メダルラッシュに繋がったといわれています。そしてこのチーム力の醸成は、我々の事業活動にも大いに通じるところが有るのではないのでしょうか。

さて、今般の自動車産業を取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。今年に入って発生した自然災害等により、あらためてBCM/BCP等をはじめとしたリスク管理の重要性を再認識することとなりました。また、自動運転をはじめとした次世代自動車の動向、「第4次産業革命」といわれる「インダストリー4.0」、TPP協定交渉の大筋合意による今後の動向が注目されるところです。

前号の特集記事「グローバル生産とマザー工場 広がる世界生産と変化する工場の位置づけ」が掲載されました。ものづくりのグローバル化に伴い、海外の工場が新製品の立ち上げによりノウハウを蓄積し、国内から海外へマザー工場がシフトしていく一方で、国内工場は最先端のものづくりを伝える等、国内と海外の役割や位置づけに変化が生じております。

先進国・新興国等拠点となる国の文化・

成熟度とノウハウの蓄積等により、改めて工場ごとの位置づけを見極め、特にマザー工場としての機能を期待する拠点に関しては、ローカル人材の育成と登用を計画的かつ早急に推進していくことが、グローバルでの最適生産につながるようになるかと思われます。現地で採用し、期待したローカル人材が転職してしまったり、日本での研修を済ませ、現地での活躍が期待されたローカル人材が帰国後に退職してしまったという話もよくありますが、日本のものづくりのグローバル化においては避けては通れない課題です。また、国内工場での最先端のものづくりを行うためには異業種企業とのコラボ、産学協同での開発なども視野に入れることが必要かと思われます。

この様な自動車産業を取り巻く環境の変化とものづくりのグローバル化への対応は、自動車部品工業会全体での意見交換・情報の共有化等を行うことで、自社単独で取り組むよりも効率的に行うことができ、より効果的な結果を生み出すことも可能だと思います。私たちが「チーム自動車部品工業会」として引き続き、会員皆様の成長・発展の助けとなるべく、自動車産業が直面する課題や社会情勢を踏まえ、会員目線で時宜を得た活動を推進して参りますので、一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

特集

新たな出会いの場を造る 部品メーカーから見た学生フォーミュラ

認知度を引き上げる

若年人口の減少を背景に企業の採用活動に拍車がかかるなか、自動車技術会が開催する「全日本学生フォーミュラ大会」に、自動車部品メーカーをはじめとする企業の関心が高まっている。9月6日から10日まで静岡県の小笠山運動公園で開かれた第14回大会には昨年を15社も上回る66社が企業ブースを出展した。自社製品の展示などを通じて企業の認知度向上を図るのが狙いだ。

企業の出展ブースは今回、台風の影響もあって9、10日の2日間（本来は8日からの3日間）となったものの、全国から集まった大会出場大学の学生でにぎわった。何もないところからレーシングカーを創りあげる大会とあって、学生等の部品への関心は高く、足回りはエンジン分などそれぞれの担当によって気になる部分や技術的な疑問などを出展者に尋ねる場面もオーク、企業と学生の出会いの場だけでない、ものづく

りに携わる仲間としてのコミュニケーションが目立つのも特徴だ。

将来の布石にも

今回が3回目のブース出展となるベアリングメーカー。「製品を学生に見せて知名度を上げていく」のが狙いだ。自社への採用活動に役立てるだけでなく、参加する学生等がいずれ自動車業界へと入り「自社の製品を知ってもらえれば」との思いがあるという。幅広く学生にアピールすることで未来への布石とする。自動車に関心を持つ学生の大会ならではの取り組みとなる。初めての出展というハイブリッド車の電池メーカーは「自社のPRが狙い」とする。自動車の構成部品は、一部を除きメーカー名が消費者の目に触れることは少ない。部品に関心を持つ大会だからこそ、商品の展示が役立つとみている。今回が5回目となる部品メーカーは「通常はBtoBだけに、出展によって知名度を上げるが狙い」とする。今回はオートバイの8時間耐久レース

の出場車両を展示し「バイクの展示は初めてだがレースを目玉にした」との言葉通り、参加者の関心を集めていた。

大型合併で誕生した東北の車体メーカーは「社名浸透を目的に毎年出るようにしている」とする。別の車体メーカーは、今回はじめて車両展示を行い、学生等にアピールしていた。実車展示の効果は大きかったようで、関東の車体メーカーも来年は「実車展示をしたい」と、いかに自社の製品と社名をアピールするかに知恵を絞っていた。

人手不足はあらゆる業種で

人手不足に悩むのはメーカーだけではなく、大手カー用品チェーンも同様だ。特に

メカニック不足は深刻で、大会ではレーシングカーを展示して学生等の関心引いた。大会出場校は全国の大学、そして自動車整備専門学校など幅広く、人材を求める企業の姿をアピールするには絶好の場だと力が入っている。

学生からの技術的な質問も多い。今回が2回目となるばねメーカーは、ブースに製品などを提供するスポンサー活動の状況を張り出し、はじめての学生が質問しやすいようにしていた。より具体的な活動を打ち出すことで、学生からの相談を受けやすいようにするのがねらいだ。

学生フォーミュラは世界的な取り組み

今回で14回目を迎えた学生フォーミュラ





は、北米や欧州など世界各国で開かれている「フォーミュラSAE（自動車技術会）シリーズ」の一戦だ。現在は世界8ヵ国、11大会が開かれるシリーズ戦だが、もともとはビッグ3をはじめとする北米で、自動車メーカーの採用難をきっかけに生まれたものだという。米国の理系学生らがIT系や航空産業へと就職先が移る中で、自動車メーカーが学生等との接点を増やそうとはじめたのがきっかけだとしている。年間を通してレーシングカーと作り上げる中で、完成車メーカーや部品メーカーとのコミュニケーションをより深めていくのが大きな狙いだという。

こうした傾向は日本大会でも顕著になっており、部品メーカーの出展会場でも、技

術系だけでなく採用をつかさどる人事部関係の協力も目立ってきた。さらに、入社数年目の若手エンジニアが毎日ブースで受け答えすることで、新たな刺激による社員研修にも役立てる向きもあり、幅広い活動の場として役立てようとしている。14回目となると、大会出場経験者もメーカーで中堅となっており、あえてこうした社員を会場に送り出すことで、後輩学生との接点を拡大する企業もあり、様々な方法を用いてコミュニケーションを深めている。

お互いをよく知る

参加企業によると、こうした機会が学生等の感触をつかむのにも有用で、「就職セミナーなど型どおりの受け答えしかできな

いが、会場ではより親密になり人柄を知ることが出来る」とも。学生にとっても企業の風土を知るよいきっかけとなっており、双方のコミュニケーションがより深まっているようだ。だからこそ、規模が年々拡大しているともいえる。一般的な採用活動、就職活動に比べ、大会がそのまま採用の場ではないが、車両製造やレースを通じて部品や技術などが人を介して伝えられていくだけに、双方の考え方を掴むうえでも役立っている。

会場ではレース出場にあたり、チームへ

のスポンサーを果たした企業への学生からのお礼のあいさつ回りも見られた。それぞれのチームはスポンサー獲得や部品調達、広報などの役割を分担するなど参加する学生は理系だけでない。競技ではレース車両の市場性を見極め、製造し販売に至るビジネス面を説明するプレゼンテーション競技もある。文系も重要な役割をはたしており、卒業後は自動車関連メーカーに就職した学生もいる。幅広い人材が一年間を通して交流する機会を作り上げているといえそうだ。

学生フォーミュラ視察

日本自動車部品工業会 志藤昭彦会長

「日本の自動車産業は安心だ」

大会初日の9月6日、会場を視察した志藤昭彦会長（ヨロズ会長）。レースの準備に追われる各チームの取り組みに触れて開口一番「まだまだ日本の自動車産業は安心だ」と笑顔をこぼした。若者の自動車離れが懸念される中、レースに臨む熱心な学生に触れ、自動車、ものづくりにかける意気込みを感じたからだ。競技車両の市場性を説明し、ビジネス性を仮のスポンサー候補に訴えかけるプレゼンテーション会場での視察では、聞き手にわかりやすく伝える力を非常に評価していた。「若い人の熱意と力強さを感じた」とするとともに、「これからのものづくりを支えていくことになる」と大きな期待を寄せる。部品メーカーの多くは、参加チームや大会への協力を惜しまない。会場ではブースを設けて参加者との交流を深める企業が増えている。それだけに、日本の自動車関連の部品メーカーが参加する日本自動車部品工業会として、今後もさらに協力していく考えだ。



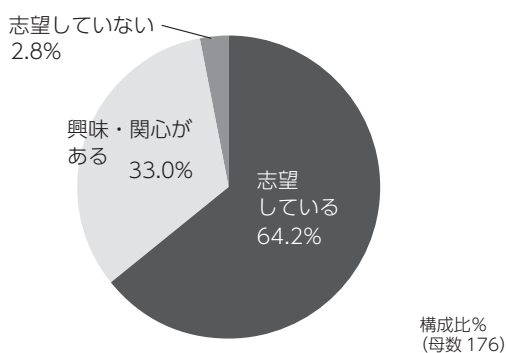
自動車部品メーカーへの関心を探るアンケート調査を実施

大会参加者の97%が自動車業界への就職に関心を持つ

全日本学生フォーミュラで実施した参加学生を対象にしたアンケート調査で、97.2%と圧倒的対数が自動車業界への就職を希望していることが明らかになった。同調査は日本自動車部品工業会と日刊自動車新聞社が毎年、大会が開かれる会場で実施しており、本年は大会最終日とその前日の9月9、10日の2日間にわたって行った。アンケートの有効回答数は176人で、このうち、171人が自動車産業への就職を志望している結果となった。

就職先として自動車産業を志望しているのは全体の64.2%に達し、興味・関心があると回答したのは33%だった。志望理由は「車好き」やフォーミュラなどこれまでの経験をいかして「クルマに関わりたい」とした学生が多く、「工学の集大成。市場が世界につながっている」とした回答もあった。「車に興味。部品の設計がしたい」と具体的な将来像を描いている学生もいた。

Q.1 就職先として自動車業界を志望していますか



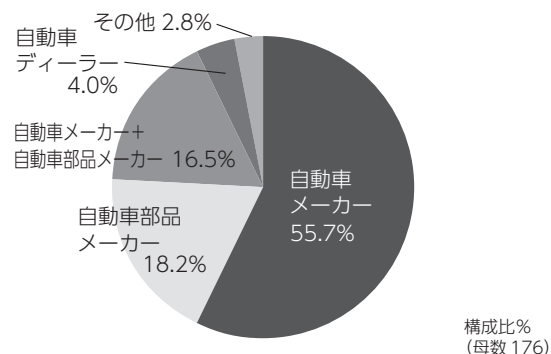
志望している	113	64.2
興味・関心がある	58	33.0
志望していない	5	2.8
総 計	176	100.0

部品開発に携わりたいとの声も

自動車産業への就職を希望している、もしくは興味・関心があるとした回答者のうち、就職の志望先では、自動車メーカーが全体の55.7%、自動車部品メーカーが18.2%を占めた。自動車メーカーと自動車部品メーカーの双方を志望する学生は16.5%だった。

このうち、志望しているとした回答者の内訳は自動車メーカーが37.5%、自動車部品メーカーが9.7%だった。双方を志望するのは10.8%。一方、興味・関心があるとした回答の内訳は自動車メーカー18.2%、自動車部品メーカー8.5%、双方が5.7%だった。志望者のコメントでは「未来の車を丸となって作ってみたい」とした声があり、自動車部品メーカー志望者は「エンジニアリングに興味があり、部品開発に携わりたい」「エンジン、トランスミッションに興味がある」「部品そのものに興味がある」「のぞむ箇所の設計が出来そう」といった回答があった。

Q.2 志望している、興味関心がある方はどの分野を志望していますか



自動車メーカー	98	55.7
自動車部品メーカー	32	18.2
自動車メーカー+自動車部品メーカー	29	16.5
自動車ディーラー	7	4.0
その他	5	2.8
合 計	171	97.2

内訳【志望している】

自動車メーカー	66	37.5
自動車部品メーカー	17	9.7
自動車メーカー+自動車部品メーカー	19	10.8
自動車ディーラー	7	4.0
その他	4	2.3
合 計	113	64.2

【興味・関心がある】

自動車メーカー	32	18.2
自動車部品メーカー	15	8.5
自動車メーカー+自動車部品メーカー	10	5.7
自動車ディーラー	0	0.0
その他	1	0.6
合 計	58	33.0

自動車部品メーカーへの関心はあるものの情報がたりない

自動車部品メーカーへの志望者のうち、志望先が決まっているのは9.7%、まだ決めていないとの回答が23.9%だった。決まっている回答者は「ベアリングやシャフトドライブに興味がある」「空力関連などエアロパーツの設計をしたい」「足回りの部品に興味がある」「電気系に興味がある」との回答があった。決めていない回答者は「知らないメーカーもたくさんあると思う」「自動車部品が多彩なため」「具体的にどのような部品があるか把握しきれていない」などと、多くの企業が存在することは認識しているものの、具体的な会社名や部品名など、あるいは部品と製造会社との関連性など、自動車部品産業に関心はありながら情報が不足していることがうかがえた。

Q.3 自動車部品メーカーでどのような分野に行きたいか決めていますか

構成比%
(母数 176)

決まっている	17	9.7
決まっていない	42	23.9

Q.4 自動車部品メーカーに期待することや求めていること

- ・部品メーカーを知る機会がないので、車に興味がなくとも社名を知ることが出来る様にしてほしい
- ・自動車の整備学校からもメーカーに就職できる機会があれば
- ・燃料技術に貢献したい
- ・将来性（今後生き残れる分野かどうか）
- ・十分な強度
- ・信頼性
- ・各部品の説明や説明書のある、または各部品の状態が分かる自動車販売
- ・古い車に乗っているのに、古い車種に適合がある部品が欲しい
- ・若者のクルマ離れというフレーズを無くせるようなクルマ（部品）を世の中に出してほしい
- ・OEMや大量生産だけでなく、レースや新しい車への挑戦
- ・安全、安心感のあるクルマのためにさらなる飛躍を期待しています
- ・価格、性能面において幅広い商品展開を行うこと
- ・世の中にないものの開発
- ・一つの部品の使える範囲が広くなり、一つの部品が一つの車ではなく、常に変化しているような車に使えるようになってほしい
- ・やりたいことができるなら、素晴らしいと思います
- ・メーカーで生産が終了した自動車のパーツを生産してほしい
- ・より整備しやすいパーツ
- ・もっと幅広い車の部品を作してほしい
- ・素人でも簡単、安全に取り換え出来る部品
- ・使いやすい、メンテナンス性の向上
- ・一般目線でわかるようにしてほしい—広報
- ・社会の流れにとらわれず、作りたいものを作してほしい
- ・スーパーカーづくり、日本の名車を残すこと
- ・もっとPRの場を増やして頂きたい（フォーミュラなどの時でしか知ることが出来ないため）
- ・こだわりの持った車作り
- ・若者向けに乗って楽しい車が欲しい
- ・何年目から設計をどの程度任せてもらえるか、転勤について
- ・部品のスペシャリストとして色々教えていただければ
- ・冷却系のパーツを開発してもらいたい
- ・更なる進化（電気系など）

- ・もっと面白いバイクや車を出してほしい。快適性よりもドライビングの楽しさが欲しい
- ・部品を早く廃盤にしないでほしい
- ・整備性の良さ
- ・部品の小型化、信頼性の向上、EV用パーツ
- ・部品の安さ、精度
- ・よりコンパクトな部品の開発
- ・やりがい
- ・運転の楽しい車を作してほしい。自動運転エコカーではない魅力的なクルマ
- ・長持ち、信頼できる部品
- ・新たな技術
- ・車から部品全体を変えられたら格好いい
- ・オーダーメイドに合わせた生産ラインの実現で、商品の多様性があると面白い
- ・低コストかつ高性能な部品を作してほしい
- ・部品の入手性を高くしてほしい

求める企業の条件とは

今回のアンケート調査では就職先の情報源や企業の条件なども聞いた。このうち就職先を選定する情報源では「先生や先輩、知人」が27.8%、「学校への求人情報」23.3%。入社希望としてこだわる条件では「給与・待遇面」「仕事の内容」がともに20%を上回った。

Q.5 あなたにとって就職先を選定する情報源として、重要な項目は何ですか

構成比%
(母数 417)

先生や先輩、知人	116	27.8
学校への求人情報	97	23.3
求人サイト活用	30	7.2
インターネット検索	63	15.1
雑誌、新聞など	14	3.4
企業訪問	55	13.2
就職セミナーなど	40	9.6
その他	2	0.5
	(作っている製品、親)	
合 計	417	

Q.6 入社希望として強くこだわる企業の条件とは

構成比%
(母数 461)

給与・待遇面	99	21.5
認知度の高さ	21	4.6
企業規模（売上高、利益、社員数など）	37	8.0
将来性	90	19.5
社風・風土・経営理念など	55	11.9
企業及びトップの考え方	36	7.8
取扱商品	27	5.9
仕事の内容	95	20.6
その他	1	0.2
	(女性が働きやすいかどうか)	
合 計	461	

快適な車内空間を 創造するHOWA

前身は綿花問屋

伊藤辰郎社長



会社プロフィール



本社

本部	〒486-0969 愛知県春日井市味美白山町2-10-4 TEL.0568-34-8180 FAX.0568-31-4014
資本金	3億240万円
従業員	3001人（2016年3月現在、グループ全体）
生産拠点	事業所拠点 本社／愛知県春日井市味美白山町2-10-4、厚木システム開発センター／神奈川県厚木市中町4-16-18 YAGIビル7F、東京支店／神奈川県厚木市中町4-5-14 国際厚木ビル3F、大阪営業所／大阪府池田市城南1-8-23 池田共栄ビル3F、栃木営業所／栃木県宇都宮市東宿郷3-1-9 あかねビル4F、磐田工場／静岡県磐田市新貝2880、岡崎工場／愛知県岡崎市桑谷町字新座山3-1、株式会社豊和繊維九州製作所、同岩手製作所、同栃木製作所、日豊化成株式会社岐阜工場、海外／北米、欧州、中国、アセアンなど12か国に18工場と営業拠点、米国と中国に開発センター
代表者	代表取締役社長 伊藤辰郎

意気に感じて

豊和繊維工業の創業は1955年3月。当時綿花問屋を経営していた澁谷安現会長に、米国車や欧州車を研究するトヨタ自動車からシートのクッション材の相談を受けたのがはじまりだ。当時の海外車両はシートには綿繊維を並べ布団状にした詰めものを使用していたことが明らかになり、繊維に詳しい澁谷会長に声がかかった。リンターと呼ばれる綿繊維を座布団状に寒冷紗で包みワイヤーを通したバネ受けをつけて縫製した「コットンマット」を自社開発。初代クラウンの生産開始に伴い量産体制の確立を求められ、発祥の地名古屋市の黒川工場を離れた後、1961年には現本社に本社と工場を移転した。クッション材の技術がまだ日本にない時代「澁谷会長や当時の技術担当役員が欧米の技術をいち早くつかんで完成車メーカーに提供することを意気に感じていた」と伊藤社長。フェノール樹脂の開発や、布を開織してフリースにし、フェノール樹脂を混合し熱硬化することでフェルトにする原材料加工技術、フロアやルーフィングシートの「フェルトトップ」の開発と、自動車の内装材において先進技術を次々

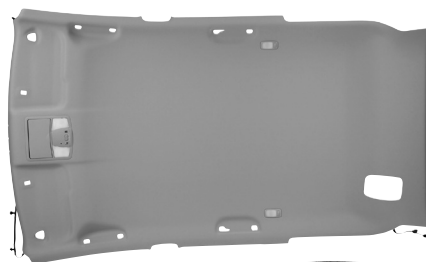
と開発していった。

開発と生産の両立

1980年代半ばまでにこれも日本ではじめてウッドファイバーの成形ボートの生産を開始した。いずれも先進技術として、完成車メーカー系列のサプライヤーも参考にするほど。1990年代前半にミニバンブームが訪れ、部品の一体化、大型化を求められそれに応えるため、日本ではじめて大型の一体天井を生産するなど、開発、生産技術とも最先端を走り、先進技術とコスト競争力の両立を確立していく。本社周辺の住宅化の進展に伴い生産機能を磐田工場などに移管し、1991年には自動車が丸ごと入る半無響室を設置した技術本館を竣工し、防振防音対策の本格的な開発体制を拡充する。こうして車両の内装から防音部品まで幅広い部品を扱うようになり2000年には当時の日産自動車が進めていた一社購買体制に伴い内装のシステムサプライヤーとなる。成形天井とサンシェード、ダッシュサイレンサーを三本柱とする同社は主要製品で国内シェアトップを誇り、米国や中国市場においても日系メーカーではサンシェードのシェアで70%を占めるという。トップラ



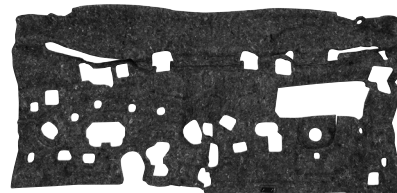
サンシェード



ヘッドライニング



フードインシュレータ



ダッシュサイレンサー



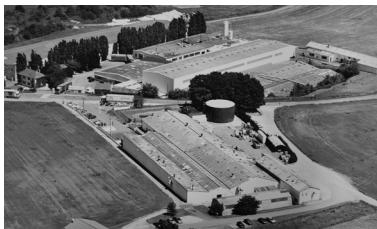
磐田工場



岡崎工場



九州製作所

American Howa Kentucky, Inc.
(AHK 米国ケンタッキー州)Howa Tramico SAS Coulombs工場
(仏国パリ市西側近郊)

TianJin Xinming Textile Resin Co., Ltd

ンナーとして生産性の向上にも取り組み、さらなる競争力の強化を図る。

グローバルに人材を登用

大型部品は物流面をみても完成車工場との距離が重要となるだけに、国内工場の拡充だけでなく、2000年以降は完成車メーカーのグローバル化に合わせ、海外展開が急ピッチで進む。「一年間に1, 2拠点は進出していた」と伊藤社長。現在もその展開はとまらない。来年にはポルトガル、米国で新工場が立ちあがる予定だ。南米やインド、モロッコへの進出要請もかかっている。それだけに、人材の育成は急務でもある。「日本から70人程度が海外に赴任しており、(交代要員となる)人材の養成が重要だ」とする。グループ全体で3千人に達する人材も重視し、有能な人材の流動性を高めていく考えだ。日本人、現地採用者の区分なく、グループ全体で有効な人材配置を進める。さらに、急速に展開した海外拠点において「それぞれの拠点を伸ばす」として、営業や調達、技術などあらゆる分野の人材を養成し、戦力を強化していく考えだ。

完全運転自動化の時代が到来すれば、車室内が個室

の様に閉鎖した空間でもよいという見方もある。そうならば「天井をスクリーンにして映画を見るなど、室内における楽しみが生まれるのではないかとみる。成形天井に「付加価値の研究を進めて提供していきたい」とも。すでに次世代車への開発は製品として具現化している。ハイブリッド車特有の音の低減を目指して開発した天井やインシュレーターが新型プリウスに採用され、技術開発賞を受賞した。プラグインハイブリッド車や燃料電池車など電動化による次世代自動車の進化は、新しいパワーユニット発声音や風切り音、タイヤノイズへの要求レベルも一段と高まる。先進技術の開発はまだまだ進むといえそうだ。

グローバル対応に期待

日本自動車部品工業会に対してはバーチャル展示会に期待を高めるとともに、様々な会合が良い刺激になっているという。さらに、グローバル化が加速するなかで、海外情報の更なる発信や、完成車メーカーが求める環境対策などへの対応など、海外の自動車部品関連団体と連携する部工会への期待は高い。

日米金融政策のかい離は拡大せず 為替レートの円安圧力は極めて緩慢 海外経済の下振れリスクに伴う円高進行に留意

2015年半ばに一時1ドル125円まで円安が進んだドル円為替レートは、2016年年明け以降は一転して円高基調となり、足元では100円程度で推移している。こうした動きを受けて、10月3日に公表された日銀短観9月調査の2016年度の企業収益（全規模全産業）は、依然高水準ではあるが、前年比で8.1%の減益を見込む等、製造業を中心に利益計画を下方修正する動きが広がっている。本稿では、昨年までの円安の動きと今年に入ってから進んだ円高の背景について、簡単に振り返りを行った上で、今後の為替レートの展望を考察していくこととしたい。

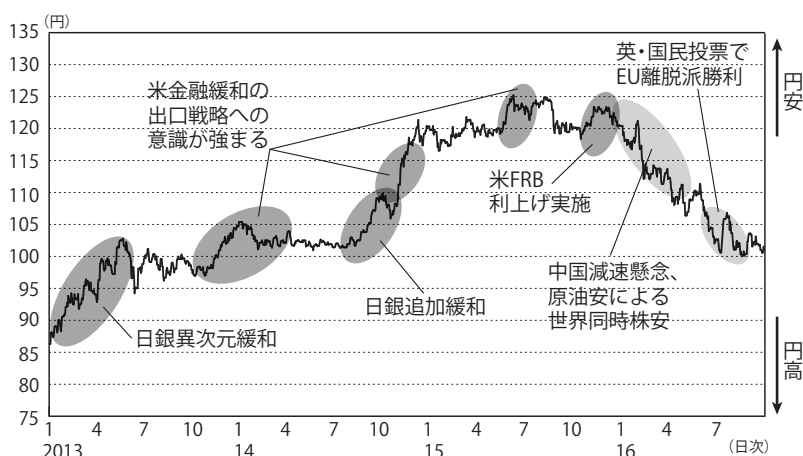
まず、2012年末の安倍政権発足以降、一時70円台まで円高が進んでいた為替レートは、2013年4月に日本銀行（日銀）が、大規模な国債買入れを通じてマネタリーベースを年70兆円拡大させるとする異次元緩和を打ち出すと、1ドル100円前後まで円安が進んだ。2014年には、米連邦準備制度理事会（FRB）が行っていた大規模な債券買入れ（QE3、量的緩和第3弾）

ペースの縮小や、10月末の日銀追加緩和（マネタリーベースの増加ペースを年80兆円に拡大）を材料に120円までさらに円安が進み、2015年半ばには、米国の年末の利上げが意識され、ドル円為替レートは一時125円まで達した。

他方、2016年に入ると、中国経済の減速懸念や原油安が進行し、世界的に金融市場が混乱、6月下旬には英国の国民投票でEU離脱が選択されたこともあり、米国の利上げが後ろ倒しになるとの見方から一時100円割れまで円高が進行。その後は英EU離脱問題の影響は中長期に渡るとの見方から喫緊での経済下押しに対する懸念はやや後退、足元ではFRBの年内の利上げ観測もあり、為替レートは100円程度で踏みとどまっているが、依然本格的な円安基調回帰には至っていない。

このようにここ数年は日米の金融政策のスタンスが為替相場の動きを規定する金融政策相場となっており、今後の為替レートを見通す上では、先行きの日米の金融政策の動向を展望することが有用である。

図 ドル円為替レートの推移



まず日本の金融政策については、日銀が9/20、21開催の金融政策決定会合において、これまでの異次元緩和政策の「総括的な検証」を実施し、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」へ政策の枠組みを変更した。これは、短期金利については、従来の日銀当座預金の政策金利残高に適用される

▲0.1%のマイナス金利を適用し、長期金利の操作目標については、0%程度で推移するよう長期国債の買入れを行うというものであり、従来の年80兆円の国債買入ペースを目処としつつも、場合によっては国債買入規模の減額も想定されており、事実上、日銀は量から金利へ政策目標を変更したと言える。

9月会合での政策の枠組み変更は、これまでの年80兆円の国債買入ペースではいずれ買入れの限界がみえていたこともあり、より長期に渡り金融緩和が持続可能となるよう枠組みを修正したものである。これは2年で2%としていた物価目標についても表われており、「消費者物価（除く生鮮食品）上昇率が安定的に2%を超えるまで」とし、より長期に渡って金融緩和政策を継続していくことがコミットされている。ただし、2年で達成するとした物価目標の時間軸がより長期の目標に変更されたため、今後の大規模な追加緩和観測はやや後退したと言えよう。

他方、米国の金融政策については、FRBが9/20、21開催の連邦公開準備委員会（FOMC）で利上げを見送ったが、声明では足元の堅調な雇用情勢等を踏まえて、「利上げの条件が整ってきた」とし、年内利上げの可能性に言及しており、市場関係者の間では、12月FOMCで利上げが実施されるとの見方が大半となっている。ただし、9月FOMCで公表された委員の中長期的な政策金利見通しでは、来年の利上げ回数が前回6月時点の3回から2回に下方修正されており、FRBの利上げペースは来年以降も極めて緩やかなものにとどまるとの見方が広がっている。

以上、日米の金融政策の動向を踏まえると、日銀は長短金利を操作目標にしつつ、引き続き緩和的な金融環境を維持する一方、FRBは利

上げ路線を継続していくとみられ、日米の金融政策の方向性の違いは、引き続き為替レートへの円安圧力となる。ただし、FRBの利上げペースは極めて緩やかであり、日銀も物価目標の時間軸をより長期の目線に変更したことから、大規模な追加緩和は期待しづらい。すなわち、為替レートが1ドル120円台で推移していた時のように、日米の金融政策のかい離が今後益々拡大していくといったことは想定しづらいため、両者の金融政策の方向性の違いによる円安圧力は緩慢なものとなり、為替レートが現行水準から大きく円安基調に回帰するといったことは困難であると考えられる。

また世界経済を見渡すと、足元の下振れリスクは山積している。年初のように中国経済減速への不安が高まる可能性や、欧州金融機関の不良債権問題深刻化、英国のEU離脱問題への不安が拡大する可能性も考えられる。リスクシナリオとして、仮にこうした世界経済のリスクが顕在化した場合には、米国の利上げは益々困難になり、「質への逃避」の動きから為替レートは100円を割り込んで円高が急進する可能性があり、留意が必要となろう。他方、米国経済は比較的堅調に推移しており、イエレンFRB議長も9月の議会証言で「最近の雇用の改善は長期的に持続可能なペースを上回っている」と発言している。今後、経済の過熱が進む場合にFRBが利上げペースを加速させるケースもありうるため、その場合には円安圧力が強まることになる。

参考文献：

- 日本銀行「全国企業短期経済観測調査（日銀短観）2016年9月調査」
(<http://www.boj.or.jp/statistics/tk/gaiyo/2016/tka1609.pdf>)
- 日本銀行「金融緩和強化のための新しい枠組み：「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」」
(http://www.boj.or.jp/announcements/release_2016/k160921a.pdf)

工業会業務レポート

委員会活動

総務部

●業務報告〔8/16～10/15〕

- 9月2日 編集企画会議 JAPIA NEWS特集企画等の検討
自動車部品会館
- 9月23日 政策懇談会 取引適正化の動きと自主行動計画策
定について 自動車部品会館
- 10月6日 世耕経済大臣と正副会長等との懇談会 取引適正
化に向けた自主行動計画策定について ザ・キャ
ピトルホテル東急

●行事予定〔11/16～1/15〕

- 12月16日 正副会長等打合せ会、理事会 各委員会活動報告
他 リーガロイヤルホテル大阪

業務部

●業務報告〔8/16～10/15〕

- 8月24日 経営調査部会 ・2016年度第1四半期 自動車部品
工業の経営動向（案）について検討を行った。
部品会館
- 8月26日 総務委員会運営幹事会 ・9/9（金）総務委員会の
運営について検討を行った。（株）リケン 柏崎事業所
- 8月29日 海外子会社人材受入円滑化検討WG ・9/2人財・
労務部会への報告について検討を行った。 部品
会館
- 9月2日 人財・労務部会 ・海外子会社人材受入円滑化検
討WGの中間報告について検討を行った。 部品
会館
- 9月2日 総務委員会運営幹事会と調達・生産部会幹事会合
同会議 ・経済産業省自動車課太田課長補佐より
最近の取引適正化の動きに関する説明等の情報共
有を行った。 部品会館
- 9月9日 総務委員会 ・取引適正化に向けた対応について
検討を行った。 ・2016年度第1四半期の自動車部
品工業の経営動向について検討を行った。 部品
会館
- 10月4日 リコールセミナー（東京） リコールの最近の動向
の情報提供を目的としてセミナーを開催した。 ・
テーマ：自動車部品に関わるリコールリスクの現
状について ・講師：SOMPOリスケアマネジメ
ント（株） リスクエンジニアリング事業部 主任コン
サルタント 安藤悟空殿 品川東急ビル
- 10月5日 リコールセミナー（名古屋） ・テーマ：自動車部
品に関わるリコールリスクの現状について ・講
師：SOMPOリスケアマネジメント（株） リスクエ
ンジニアリング事業部 主任コンサルタント 安藤
悟空殿 損保ジャパン日本興亜名古屋ビル
- 10月5日 リコールセミナー（大阪） ・テーマ：自動車部品
に関わるリコールリスクの現状について ・講師：
SOMPOリスケアマネジメント（株） リスクエン
지니어リング事業部 主任コンサルタント 安藤悟空

殿 損保ジャパン日本興亜肥後橋ビル

- 10月6日 海外子会社人材受入円滑化検討WG ・外国人制
度・在留資格の深彫り・課題への対応の検討を行っ
た。 部品会館
- 10月12日 BCP策定・運用ワークショップ・台風などの水害
が発生した場合を想定したワークショップを行っ
た。 ・講師：（株）インターリスク総研 事業リスク
マネジメント部 事業継続マネジメントグループ
上席コンサルタント 田代邦幸様 部品会館
- 10月14日 中小企業施策委員会 工場見学会 マツダ（株）本社
（宇品）工場、マツダミュージアムの見学を行っ
た。 マツダ（株） 本社（宇品）工場

●行事予定〔11/16～1/15〕

- 11月16日 リスク対応標準化WG 部品会館
- 11月22日 経営調査部会 部品会館
- 11月22日 自動車取引適正化研究会 経済産業省
- 11月25日 総務委員会運営幹事会 ヨロズ本社会議室
- 12月14日 総務委員会 部品会館
- 12月16日 中小企業施策委員会 リーガロイヤルホテル大阪

国際部

●業務報告〔8/16～10/15〕

- 9月23日 知的財産権部会 1. 知財関連事項の説明 2. WG
の活動進捗について 3. 知財戦略についての講演
日産自動車（株） 知的財産部 部長 別宮智徳氏 部
品会館
- 9月29日 FTA・通商部会 1. 最近の通商動向について 2.
本年度のFTA・通商部会の事業の進捗説明 3.
EPA取り組み事例研究 事例発表 （株）デンソー
4. 他 部品会館
- 10月5日 国際委員会 1. 最近の情勢について 2. 上半期 国
際委員会 事業実施状況説明 3. 本年度事業の進捗
4. トピックス 5. 他 部品会館

●行事予定〔11/16～1/15〕

- 11月28日～12月4日
オートメカニカ上海共同出展 1. 来場者に向けた
模倣品の危険性・違法性の啓発 2. 真正品が購入
できる店舗情報の提供 上海
- 11月27～30日
中国模倣品対策ミッション 1. 杭州、合肥、上海
の各税関への真贋判定セミナーの実施 2. アリバ
バ（インターネットサイト）との模倣品対策に関
する意見交換の実施 上海、杭州、合肥
- 12月初旬 FTA・通商部会 1. 最近の通商動向について 2.
本年度事業の進捗説明 3. EPA取り組み事例研究
事例発表 ティ・エス テック（株） 4. 他 部品会館
- 12月15日 国際委員会 1. 最近の情勢について 2. 上半期
国際委員会 事業実施状況説明 3. 本年度事業の
進捗 4. トピックス 5. 他 部品会館
- 1月6～12日
日米欧三極会議 事務局会合 ラスベガス

関東支部

●業務報告 [8/16～10/15]

- 8月31日 自動車産業視察ミッション 事前勉強会（講演会）
「ASEAN経済共同体（AEC）と域内日本企業のビジネス環境」日本貿易振興機構（ジェトロ） 海外調査部 アジア大洋州課長 博士（経済学） 池部亮様
「ベトナム及びマレーシアの自動車・部品産業」早稲田大学名誉教授 総合研究機構 自動車部品産業研究所顧問 博士（文学） 小林英夫様 経団連会館
- 9月5日 自動車産業視察ミッション参加者説明会 部品会館
- 9月20日 経営研究会施設見学会（株）エフテック 芳賀テクニカルセンター
- 10月1～8日
自動車産業視察ミッション ベトナム、マレーシア

●行事予定 [11/16～1/15]

- 11月24日 関東支部拡大運営委員会・懇親会 八芳園
- 12月21日 第3回関東支部企画部会 三輪精機(株)羽生工場

中部支部

●業務報告 [8/16～10/15]

- 8月23～26日
中小企業大学校瀬戸校研修会 「管理者のための部下育成」 中小企業大学校瀬戸校
- 8月25～26日
AIAG コアツール実践2日間セミナー 刈谷市産業振興センター
- 8月25～26日
ISO/TS16949 内部監査員2日間セミナー 刈谷市産業振興センター
- 8月29～30日
ISO14001:2015 内部監査員2日間セミナー 刈谷市産業振興センター
- 8月31日 講演会（中小企業部会）「世界の電動化車両の将来展望」(株)フォーイン 社長 久保鉄男氏 名古屋栄ビル
- 9月3～11日
メキシコ自動車産業視察 メキシコ合衆国
- 9月8～9日
ISO9001:2015 内部監査員2日間セミナー 刈谷市産業振興センター
- 9月28日 講演会（環境部会）「国内とアジアにおける産業廃棄物と土壌規制について」 DOWAエコシステム(株) 名古屋栄ビル
- 9月29～30日
ISO/TS16949 内部監査員2日間セミナー 刈谷市産業振興センター
- 10月6日 優良企業工場見学会（中小企業部会） 鍋屋バイテック会社 岐阜県関市

●行事予定 [11/16～1/15]

- 11月17日 優良企業工場見学会（中小企業部会） 三菱電機(株) 名古屋製作所 名古屋市内
- 11月25日 環境保全に関する講演会・事例発表会 「トヨタ環境チャレンジ2050」 トヨタ自動車 「水素社会の実現に向けた取り組み」 岩谷産業 事例発表会（13事例） 名古屋市工業研究所
- 12月8日 第2回運営委員会 上期事業・決算報告 名古屋市内
- 12月13日 海外視察報告会 メキシコ自動車産業視察報告会 名古屋市内
- 12月13～14日
中小企業大学校瀬戸校研修会 「部課長のための女性活躍マネジメント講座」 中小企業大学校瀬戸校

関西支部

●業務報告 [8/16～10/15]

- 9月2日 第2回正副支部長会・第1回運営委員会・情報交換会・講演会・懇親会 「自動車産業の展望～日本メーカーのファンダメンタルズの見通しと、必要とされる競争力の考察」 (株)ナカニシ自動車産業リサーチ 代表 兼 アナリスト 中西孝樹氏 リーガロイヤルホテル広島
- 9月30日 総務・品質・補修部品分科会共催 【第1回】海外進出講座 基礎情報編&事例研究編（Ⅰ）「海外進出事前準備」（独）日本貿易振興機構 お客様サポート部 貿易投資アドバイザー 三木邦夫氏 「現地法人設立、工場設立・運営、労務管理」（独）日本貿易振興機構 お客様サポート部 貿易投資アドバイザー 市川栄二氏 (株)エクセディ
- 10月4日 生産分科会 委員会・ご指導会・工場見学会「現場改善を通じたイノベーション」 (株)柿内幸夫技術士事務所 柿内幸夫様 ダイキョーニシカワ(株) 中関第1工場
- 10月6～7日
品質分科会 ISO/TS16949：2009 内部監査員2日間セミナー エル・おおさか

●行事予定 [11/16～1/15]

- 12月7日 総務・品質・補修部品分科会共催 【第4回】海外進出講座 事例研究編（Ⅲ）「タイ国での企業経営について」 エクセディ・タイランド 鈴木（前）社長 「ハンガリーの自動車/自動車部品産業の現状とハンガリー進出への道標 [助成金、補助金、近隣諸国とのデータ比較]」 ハンガリー大使館 コーシャ 一等書記官 (株)エクセディ
- 12月16日 第3回正副支部長会・第2回運営委員会・情報交換会 リーガロイヤルホテル大阪
- 1月11日 平成29年度十団体共催新年賀詞交歓会 ホテル阪神

技術関係委員会等の開催状況 (8/16～10/15)

1. 総合技術委員会

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
9月2日	H28年度第2回 総合技術委員会幹事会	品川インター シティ	1) 講演(トヨタ紡織) 2) METI報告 3) 環境問題への対応について 3) 電子情報化への対応について 4) 基準・認証制度への対応について 5) 事務局より 6) その他 各委員の情報交換
9月21日	H28年度第3回 総合技術委員会幹事会	自動車部品会館	1) 現在、工業会として対応を求められている新技術関係の案件について
9月15日	ITS部会幹事会	自動車部品会館	1) ITS世界会議メルボルン2016について

2. 基準認証部会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
9月8日	基準認証部会 インドWG	自動車部品会館	1) 最近の周辺情報の共有 2) インドミッション計画と準備日程
	基準認証部会 ASEAN WG	自動車部品会館	1) JASIC官民フォーラム準備状況(第3回結果) 2) 官民フォーラムプレゼン内容骨子検討
9月12日	基準認証部会 中国WG	自動車部品会館	1) CATARC-JAPIA交流会の振り返り 2) JAMA中国分科会への質問、要望事項について
9月14日	基準認証部会 中近東WG	自動車部品会館	1) 中近東の認証情報交換 2) 今年度の活動計画について
10月5日	基準認証部会 インドWG	自動車部品会館	1) 最近の周辺情報の共有 2) インドミッション計画と準備日程

3. IT対応委員会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
8月25日	DE促進部会幹事会	品川インター シティ	1) 総合技術委員会に向けた報告内容の審議について 2) WG活動計画書書式変更について 3) 来年度に向けた検討について 4) 異業種交流会、及びDE促進部会について
	DE促進部会	品川インター シティ	1) 講演(JAMA) 2) 全体報告について 3) 幹事会報告について 4) その他(困り事相談、情報交換等) 5) WG報告 6) WG活動
8月26日	DE促進部会 CATIA研究会	自動車部品会館	1) 各社状況確認 2) 2016年活動テーマ検討・決定
9月7日	EDI部会NEXT-EDI-WG	自動車部品会館	1) 自工会NEXT-EDI-WGの活動計画について
9月30日	DE促進部会幹事会	自動車部品会館	1) 総合技術委員会にについて 2) 情報共有活動の進め方について 3) 来年度に向けた検討について 4) JAMA連携強化のアンケート集計結果について 5) 異業種交流会のアンケート集計結果について
	DE促進部会	自動車部品会館	1) 全体報告について 2) 幹事会報告について 3) WG報告について 4) その他(困り事相談、情報交換等) 5) 情報共有活動
9月29日	DE促進部会 NX研究会	自動車部品会館	1) 各社状況確認について 2) 2016活動テーマ検討、決定について
10月6日	DE促進部会/ E-IT新技術WG	トヨタケーラム (名古屋)	1) リエンジニアリングデモ

4. 環境対応委員会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
8月23日	生産環境部会	刈谷市産業振興 センター	1) 環境対応委員会、分科会の年度活動状況報告、審議 2) 事務局情報等

8月25日	製品環境部会幹事会	自動車部品会館	1) 欧州BPR-AIG説明会準備状況 2) RoHSカテゴリー11・日系OEM対応状況 3) 総合技術委員会報告内容
8月26日	製品環境部会	自動車部品会館	1) 欧州BPR-AIG説明会準備状況 2) RoHSカテゴリー11・日系OEM対応状況 3) 総合技術委員会報告内容
8月29日	環境対応委員会	自動車部品会館	1) 環境対応委員会、分科会の年度活動状況報告、審議 2) 事務局情報等
9月14日	JAMAシート改正関連 および中国物質調査に 関する説明会(東京)	日比谷図書文化館	1) 環IMDSリリース11の対応解説 2) 環JAMAシートver.2.40の変更内容説明 3) 環過去データのBPR項目の対応説明 4) 環中国物質調査について
9月15日	物質調査システム幹事会	自動車部品会館	1) JAMAシートver2.40改正準備 2) 改正説明会の振り返り 3) 2017年度JAMAシート改正アイテム
9月16日	化学物質規制対応分科会 幹事会	アルカディア市谷	1) 各国法規制動向 2) 物質精査活動 3) 自工会情報 4) 欧州情報
9月20日	工場用化学物質分科会	自動車部品会館	1) ガイドランスGの活動報告 2) 法規制調査Gの活動報告 3) 説明会について 4) GLAPS会議報告
9月21日	JAMAシート改正関連 および中国物質調査に 関する説明会(名古屋)	名古屋市 工業研究所	9/15東京会場に同じ
9月23日	製品環境部会幹事会	自動車部品会館	1) 欧州BPR規制・説明会準備 2) 部工会・総合技術委員会・結果報告 3) 銅合金のELV渉外の件 4) JAPIA会員向け説明会結果
9月26日	環境保全分科会	自動車部品会館	1) 今年度改訂の進め方について 2) 日本の法規制動向について 3) 海外の法規制情報発信について
10月6日	生産環境部会	刈谷市産業振興 センター	1) 各分科会の年度活動状況 報告、審議 2) 環境対応委員会 報告事項審議 3) 事務局情報等
	環境対応委員会幹事会	刈谷市産業振興 センター	1) 各部会の年度活動状況報告、審議 2) 事務局情報等
10月14日	物質調査システム分科会 幹事会	自動車部品会館	1) JAMAシート 2.40 レビュー結果報告 2) 2016年GADSLミッドイヤーアップデート内容解説 3) JIS改正議論の状況紹介
	物質調査システム分科会	自動車部品会館	1) JAMAシート 2.40 レビュー結果報告 2) 2016年GADSLミッドイヤーアップデート内容解説 3) JIS改正議論の状況紹介

5. 品目別部会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
8月23日	車輪技術部会	自動車部品会館	1) ISO対応について 2) 2017年版JATMA YEAR BOOK R 章改正について 3) 各国部品認証対応について 4) 自技会関連について
8月26日	濾器技術部会	自動車部品会館	1) ISO国際会議対応について 2) ISO投票状況 3) JIS D1611-3進捗状況
8月26～27日	クッション性分科会	滋賀	1) 東洋紡・TBカワシマ見学 2) シート技術研究発表会テーマ案出し
8月30日～ 9月1日	ブレーキホース部会 中国ミッション	北京	1) CCAPとの打合せ 2) TMEC訪問、意見交換
8月31日	シートベルト分科会	安保ホール (名古屋)	1) TASSとのミーティング 2) R16 Dummy WGの進め方
9月5日	チャイルドシート分科会	自動車部品会館	1) CRSインフォーマル会議・CRS国内対応会議報告
9月8日	電線部会	自動車部品会館	1) 前回議事録確認について 2) 第4回ISO国際会議アクションアイテム対応審議について 3) JASO D 609(低圧電線の電流容量)二次案改正審議について

9月9日	エアバッグ分科会CE-WG	自動車部品会館	1) EU Commissionの見解内容の確認とレター文面作成について
9月15～16日	オイルシール技術部会	函館	1) ISO会議(ポーランド)報告 2) JIS改定検討
9月21日	PT熱交換器分科会	自動車部品会館	1) 不凍液規格改正委員への部工会メンバー参加について 2) オイルクーラ放熱試験法改正について 3) EGRクーラ放熱性能試験方法ISO規格化について
9月23日	濾器技術部会	自動車部品会館	1) ISOロンドン国際会議対応について 2) ISO投票状況について 3) JIS D1611-3進捗状況、JIS定期見直しについて 4) 自技会フィルタ分科会関連について
	シート部会	自動車部品会館	1) 第19回シート技術研究発表会開催計画
9月26日	車輪技術部会及びタイヤ・リム合同会議	自動車部品会館	1) ISO対応について 2) 2017年版JATMA YEAR BOOK R 章改正について 3) 各国部品認証対応について 4) 自技会関連について
9月27日	摩擦材技術部会	自動車部品会館	1) ライニング分科会、小委員会の内容展開 2) 環境関連情報(銅、磨耗粉等)
9月28日	ブレーキホース部会	自動車部品会館	1) 中国ミッション報告 2) 2016年ブレーキホースCCC工場監査について
	シートベルト分科会 ダミー WG	自動車部品会館	1) ダミー WGの役割 2) R16 マネキンの精度安定化
10月3日	安全装置部会PR-WG	自動車部品会館	1) 静岡県交通安全フェアへの出展について 2) 未認定製品に対する対応について
10月4日	QRTV、警音器部会 合同会議	自動車部品会館	1) 第64回国連GRB結果報告について 2) JASIC騒音分科会結果報告について 3) JASIC後退警報WG JAPIA代表委員選出について 4) 今後の対応について
10月7日	電線部会	自動車部品会館	1) 前回議事録確認について 2) 第4回ISO国際会議アクションアイテム対応審議について 3) JASO D 609(低圧電線の電流容量)二次案改正審議
10月14日	車輪技術部会合同会議	日本自動車タイヤ協会 中部支部	1) ISO対応について 2) 2017年版JATMA YEAR BOOK R 章改正について 3) 各国部品認証対応について 4) 自技会関連について

●行事予定〔11/16～1/15〕

月 日	会合名称など	概 要	場 所
11月16日	ランプ部会		自動車部品会館
11月18日	化学物質規制対応分科会幹事会		自動車部品会館
11月21日	車輪技術部会		自動車部品会館
11月24日	DE促進部会NX研究会		デンソー (刈谷)
11月25日	DE促進部会		デンソー (刈谷)
//	製品環境部会幹事会		自動車部品会館
11月28日	PT熱交換器分科会		自動車部品会館
11月29日	物質調査システム分科会幹事会		自動車部品会館
12月2日	安全装置部会	半期事業報告	自動車部品会館
12月8日	電線部会		自動車部品会館
12月9日	シート部会	シート技術研究発表会企画	自動車部品会館
//	ランプ部会		自動車部品会館
12月16日	物質調査システム分科会		自動車部品会館
//	物質調査システム分科会幹事会		自動車部品会館
12月19日	車輪技術部会		自動車部品会館
12月21日	DE促進部会CATIA研究会		ダッソーシステムズ(大崎)
//	製品環境部会		自動車部品会館
12月22日	製品環境部会幹事会		自動車部品会館
//	DE促進部会幹事会		自動車部品会館
//	DE促進部会		自動車部品会館

アップルが自動車生産を断念

JAPIA 北米事務所 河島 哲則

アップルがこの数年間進めてきた「プロジェクト・タイタン」と呼ばれる自社製の電気自動車を造るという計画を断念したというニュースが流れました。今後は自動運転システムの開発だけに集中し、最終的に自動車造り計画を再開するのか、または自動運転システムの開発もやめてしまうのか、2017年末までに決定するのだそうです。

あの美しい商品群を生み出してきたアップルがどんなデザインのクルマにどんな機能を搭載するのだろうかという期待はあったものの、実は多くの人がアップルはクルマそのものを造りたいと思うだろうかと疑問に感じていたはずです。私もそのひとりでした。開発スピードの違いやそもそもクルマを造る文化とシリコンバレーの文化には大きく異なるものがあることなどがその理由として挙げられていましたが、それよりも、MacBookやiPhoneなど全ての商品を「委託生産」しているアップルがクルマに限っては自社生産をするわけがなく、むしろ自動車工場を建設して「腰を据えて」しまうような事業はシリコンバレー式ではない、従ってクルマも委託生産となれば、結局既存の自動車メーカーと協力するしかないのではないか、というのが大方の意見でした。

そしてもうひとつ、おそらくアップルは自動車を造るために不可欠な強力なサプライチェーンを構築できなかったのではないのでしょうか。

ティム・クックCEO（経営最高責任者）が築き上げてきたという、日本や米国を含む世界中の優れた部品サプライヤーと中国でそれを組み立てるフォックスコンというアップル製品を支える連合の形式は必ずしも自動車造りには向いていないと思います。いやむしろ優れたクルマを造る自動車メーカーとそのサプライチェーンにはアップルやサムソン電子が得意とする電子機器のそれとは全く異なる「繋がり」があり、アップルはサプライヤーとその繋がりを生み出す試みを断念したのかもしれませんが。

グーグルの自動運転車プロジェクトを率いる元現代自動車社長のジョン・クラフチック氏は早くから「クルマを自作する気は無い」と発言していました。自動車産業を熟知した同氏にはシリコンバレーが自動車屋になることの難しさがわかっていたのでしょう。

ただし、自動車業界も気を抜いてはいられません。自動運転システムの開発スピードで群を抜くグーグルやアップル他の企業が自動車を自作しないと決めたということは、彼らが自動車業界にその技術を提供するということであり、それは長年低い利益率に甘んじることを求められてきた自動車部品業界に大きな影響を与えかねないということです。その意味ではアップルやグーグルが参入ではなく「乱入」してくるのは大歓迎すべきことです。

〈完〉

中部支部 環境部会主催 「横浜ゴム株式会社 三重工場 施設見学会」視察報告

一般社団法人日本自動車部品工業会中部支部

環境部会委員 細川 芳隆 (記)

(大同メタル工業㈱環境安全センター)

1. 訪問日時

2016年7月28日 (木) 13:00～15:30

2. 訪問先

横浜ゴム株式会社 三重工場

3. 参加者

中部支部

会員企業11社14名

4. 訪問の目的

横浜ゴムの自動車用タイヤの生産拠点である三重工場にて、省エネ活動や生物多様性保全などの取組みを見学し、会員各社の環境保全の取組みに役立てる。

5. 視察スケジュール

- ・会社・工場概要説明
- ・省エネ関係活動紹介 (毎日コツコツエコ活動/CO₂ CO₂ ECO)
- ・ムダどり隊活動紹介
- ・工場見学 (コジェネ設備、ダイス加熱IH化、タイヤ製造工程など)

6. 会社概要・タイヤ製造工程

《横浜ゴム株式会社》

設立: 1917年10月

本社所在地: 東京 (新橋)

資本金: 389億円

売上高: 6,299億円 (2015年連結)

従業員数: 22,714名 (2016年連結)

事業分野: タイヤ事業 80%、MB事業 20%

タイヤ生産拠点: 国内4工場・海外8工場

《三重工場》

事業内容: トラック・バス・RV車用タイヤ製造

創立: 1943年 (操業73年)

敷地面積: 271,000㎡ (東京ドーム6個分)

主力製品: TBSタイヤ (トラック・バス用スチールラジアルタイヤ) LTRタイヤ (ライトトラック用ラジアルタイヤ)

(タイヤの構造と製造工程)

- ・タイヤの構造: ゴム層 (トレッドコンパウンド) とサイドウォール

- ・タイヤの製造工程: 混合工程 (原料を混ぜ、板状に冷却) → 押出工程 (ゴム押出し/1本分の長さに切断) → カレンダー工程 (コード両面にゴムコーティング) → 切断工程 (タイヤ1本分に切断) → ビード工程 (リングに巻取りビード成形) → 成形工程 (グリーンタイヤを作る工程) → 加硫工程 (型の中に入れ熱と圧力) → 仕上げ・検査

◎混合工程で電力の50%、加硫工程で蒸気の70%使用

7. 省エネ関係活動

- ・省エネ活動の柱: 4つのM《Man 人・Machine設備・Material材料・Method方法》

Man [人]

- ・月1回、省エネ分科会開催、省エネ推進者 (約20名) が集まり、工場のエネルギーの状況把握、改善事例の紹介、問題点の共有を図っている。
- ・省エネパトロール・ムダ取り隊による工場放送での呼びかけを実施している。

Machine [設備]

- ・大口省エネ設備による抜本的改善と小規模投資による設備改善で実施している。
- 小規模投資による設備改善は、押出用鉄型加温方法を蒸気からIH式に変更している。

Material [材料]

- ・蒸気配管の放熱ロスを削減するため、撥水・通気性の両立した保温材を採用している。

Method [方法]

- ・生産計画による停止マシンの集約化と日祝日の安価な電力単価日にマシンを積極的に稼働し、省エネとコスト両面の効果的な生産運用をしている。

□省エネ月間

- ・省エネ月間期間中の実施計画を作成・目標設定し、関係者へ周知
- エネルギー費2%カットで取り組み、パトロールと改善により目標の144%達成
- ・月間時のPR活動: ワッペンの着用や、「みんなで省エネ!」との「み」「ん」「な」・「省」「エ」「ネ」・と各文字の記載された紙を持って出勤時にPR。
- ・パトロールによるもれ復元活動
- ・コンセプトは「楽しく体感、楽しく省エネ」(楽しくないとなかなか続かない)
- ゲーム感覚で省エネ (消す・止める) を体感できる

装置を使用

□環境月間

- ・環境月間コンセプト「1・1・1」（一人が1mmの穴を1箇所直せば、大きな省エネになる）活動を実施している。
- ・省エネパトロールで漏れ点検の実施
- ・業務課と協同して食堂残飯削減活動の実施

□省エネ投資改善事例

各製造工程において、ポンプの効率改善・モータ交流化・断熱効果改善・加熱方式の変更等により大きな効果がでている。

8. 女性社員で構成する「ムダどり隊」活動

2005年に社長直轄部門として女性で構成するムダどり隊が発足し、女性の視点からムダを徹底して省くことが目的。ムダどりは、2S・コストダウン・作業の効率化で効果を上げ、「とにかくお願い」し、上から目線では動いてもらえない。

《効果》

- ・社内フリマで消耗品費削減：呼びかけ半年で消耗品費 58%削減
- ・内線通話の徹底で通信料金 48%削減
- ・現在も活動継続中で、ムダどり経験者も増えパワーアップし、また工場の責任者の方々も協力してくれているようになっている。
- ・現在実施しているムダどり活動は、必須課題でウエス回収・ペーパーレス化、継続課題で2S点検、独自の活動で省エネパトロール、MD放送、グリーンカーテンを作る活動実施

《ウエス回収》

工場内で使用するウエスを従業員の方に持ってきてもらうことで、購入ウエスゼロを継続中。回収場所は業務課、各職場にウエス回収BOXの設置、OBの方が来る診療所にも回収BOXを設置。また、衣替えの時期に駐車場でウエスを回収。

《ペーパーレスの取組み》

紙資料使用の多い工程へヒヤリングし、優先順位を決め対策検討中とのこと

《2S点検》

不要物や仮置き撤去、物の置き方をチェック、対策前後で写真をとって報告

《省エネパトロール》

事前に漏れの点検のポイントを教えてもらい、ムダどり隊も参加し、女性の新たな目で漏れを発見する

《MD放送》

照明の消灯、エアコンの温度設定、スイッチの切り忘れ防止など、お昼に放送をして省エネの呼びかけを行う



《グリーンカーテン》

中2階事務所の窓にグリーンカーテン設置（平均3.5℃・最高5.1℃の効果）

9. 環境活動（生物多様性活動）

三重工場では、植樹活動・周辺区の清掃環境や生物多様性活動に積極的に取り組んでいる

《千年の杜プロジェクト》

国内外工場にて2017年までに50万本植樹することを目標に取り組む

《企業の森 植樹活動》

第9期まで実施し、目標に対し107%達成

《清掃活動》

継続的に周辺地域の勢田川・松尻川・二見海岸にて実施

《ビオトープ造り》

ちびっこチームといっしょにビオトープ造り、ゲーム形式を取り入れながらの活動、今後は夏休みの宿題で活用を検討

《中学校出前授業》

生物多様性の取組みに関する出前授業を実施

10. 所感

横浜ゴム三重工場において、「省エネ活動」「ムダどり活動」「環境活動」内容を聞き現場の方といっしょになり、いかに楽しく、また効果を上げて取り組んでいくかについて視察を通じて改めて感じた。

「省エネ活動」は、省エネ設備の改善、環境月間・省エネ月間の活用により、従業員の意識を高めるためのPRやゲームを採り入れ、楽しく参加できるように、また「ムダどり活動」も放送における呼びかけや省エネパトロールへの参画で環境活動に貢献し、工場全体で取り組んでいること、「環境活動」は、地域と密着した各植樹活動・清掃活動・生物多様性活動など、とても有意義なものであった。

海外危機対応に関する企業の安全配慮義務

「海外出張者が交通事故で重傷を負い救急搬送！」
「生産拠点を置く国で反政府暴動が発生！」

このような危機が発生した場合に企業はどのような対応をすればよいのでしょうか？ 対応の仕方によっては企業の安全配慮義務が厳しく問われることになります。

今回は2つの事例に基づき対応のチェックポイントについて解説します。

■アジアの途上国の地方都市で 出張者が交通事故で重傷

アジアの途上国の首都から鉄道で2時間の地方都市に一人で出張中のAさんが交通事故に遭い、重傷を負って市内の病院に救急搬送された。Aさんの名刺を見た現地病院から会社に連絡が入った。

緊急対応で必要なことは…？

1. 24時間海外からの緊急連絡を受ける体制は整っているか
2. 緊急対応を行う部署や担当者が社内では決まっているか
3. 拠点のない国の場合、現地へは誰が駆けつけるのか
4. 家族対応はどうすればよいのか

このような重篤な事案の場合は、本社として24時間直ぐに連絡を受け付けて初動対応を行う体制が必要である。平時から必要な業務を行う担当者が決まっていないと、迅速な対応ができず、事態を悪化させることもありうる。また、慣れない国で、しかも医療水準もまちまちで、医者とのコミュニケーションもとりにくい状況の中で、一刻も早く現地に誰かが駆けつける必要がある。家族への連絡、現地渡航支援なども重要な課題である。

この事例は、まだ緊急事態が始まったばかりの状況だが、Aさんが回復して日本に帰国するまでに飛び出す様々な課題は一刻の猶予もなく、即決していかなければならない。このようなことに対応できる態勢を構築することが「企業の危機管理」である。

具体的に取り組むべき課題は以下のような項目がある。

- ・ 駐在員、出張者のトラブル予防や初動対応の教育
- ・ 危機管理担当者および関係者の教育と訓練
- ・ 平時の指導から緊急対応まで責任を持って対応してくれる危機管理会社の活用
- ・ 適切な補償や対応が得られる海外旅行保険または医療搬送サービスの調達

なお、危機管理会社を活用する場合、平時の予防対策から緊急時の対応まで一貫して行う先にするようお勧めする。各々の企業に最も適した平時/緊急時の体制、危機管理会社との連携の仕方などの大元になるのがマニュアル作りである。また、保険代理店は、海外で起こる特殊な対応を行う能力があるかを見極める必要がある。

■生産拠点を置くアジア某国で 反政府暴動が発生

生産拠点を置くアジアのX国の首都Y市では、大統領の退陣を求める反体制派のデモが日に日に激化し、デモ隊の一部が暴徒化して市民が大統領官邸に投石や火炎瓶を投げつけている。鎮圧のため出動した軍が発砲し、デモ隊に死傷者が出ている。この後事態はさらに悪化し、一般市民にも多数の死傷者が出ている。外務省はかねてからY市について危険情報「レベル1：十分注意してください」を発出していたが、これを一段階引き上げ、「レベル2：不要不急の渡航は止めてください」を発出した。

初動対応で必要なことは…？

1. この時点で本社はどのような対応をとるのか
2. 駐在者、出張者にどのような指示を出すか

その後…

事態がさらに悪化し、邦人にもケガ人がでて、外務省は危険情報をさらに一段階引き上げて「レベル3：渡航は止めてください（渡航中止勧告）」を発出した。

必要な対策は…？

3. 駐在者、出張者の安全確保のためどのような対策を講じたらよいのか
4. 事態がエスカレートした場合、駐在者はどの時点で退避させるべきなのか

5. もし「レベル4：退避勧告」が発出された場合、定期便が運航している間に退避するためには、この時点でどのような準備が必要になるのか
6. 定期便の運航が停止または定期便のチケットがとりにくくなった場合はどうするか

国外退避の対策として脱出時のチャーター機手配のサービスを調達している企業は少なくない。しかしそれだけで安心してはいけない。何も対策が無いよりはましかもしれないが、これは定期便での脱出が出来なかった場合の代替手段に過ぎず、航空機の飛行自体が不可能になる場合も考えられる。その場合に備えて、陸路や海路での退避、また安全な場所に籠城する計画も必要だ。

本来は定期便が飛んでいる安全な状態の中で退避することが望ましい。そのためには平時からどのタイミングで退避するのか、何をトリガーに行動を開始するのかなど十分に検討した退避計画を作成しておく必要がある。また、正しく判断するための情報分析など、チャーター機に頼る前に打つべき対策が沢山ある。これらの対策を講じることで「安全配慮義務」を強化す

ることができる。

これらの計画を自社で策定できなければ、危機管理会社に相談するのも1つの方法である。

■まとめ

企業の安全配慮義務はどこまでやればよいかという尺度を定めるのは簡単ではないが、他の企業が行っていることを自社で行っていない場合は、社員の身に何かあったときに義務を全うしているという説明は難しいと言える。

上記の事例でわかるように、海外旅行保険・医療アシスタンスサービス・チャーター機など専門サービスを手配するだけでは十分とは言えない。これらは全て起きてしまったからの事後対応に過ぎないのである。企業の責任としては、その前に社員が危険に巻き込まれないよう最大限の努力が必要である。

自社でそのような体制を作ることが難しい場合は、危機管理会社に丸ごと委託することも賢い選択肢だ。その場合は、平時のサポートと危機発生時の専門サービス手配・本社支援をワンストップで提供する危機管理会社に委託すると万全な支援が期待できる。

安全サポート(株)の「海外安全サポートプログラム」の特長

危機管理体制の構築から、平時のサポート、危機発生時の専門サービス手配・本社支援までワンストップで提供。

○危機管理体制構築

各々の企業に最適な危機管理体制を構築するためのマニュアル作成

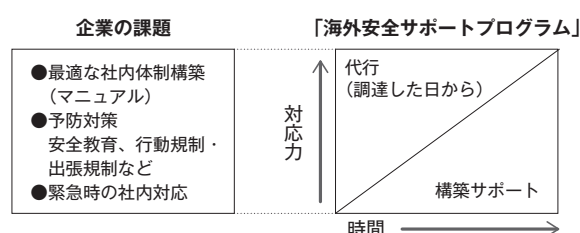
○平時のサポート

安全対策に必要な情報提供、社員安全教育、出張可否相談受付など

○危機発生時のサポート

- ・本社対応アドバイス（初動から事態収束まで本社事務局支援）
- ・専門サービス手配（医療アシスタンス、国外退避、誘拐/脅迫対応など）

企業の社内対応に関する各種課題を安全サポート(株)が代わって行うため、調達した日から万全な海外危機管理が実現。（右記イメージのとおり）



【ご参考】JAPIA会員企業向け 無料「海外安全・健康管理サービス」

※部工会会員企業向けサービス「海外安全・健康管理サービス」は、安全サポート(株)が部工会から委託を受け、運営しています。

1. JAPIA安全サポート情報（海外の治安、感染症など）：平日毎日メール配信
2. 海外で安心して使える病院情報提供（アジア7か国）：JAPIA会員専用サイトから検索
3. 海外赴任者・出張者講習への参加：東京で毎月1回開催
〈サービス運営会社〉安全サポート株式会社
〈ご利用方法〉部工会HPから登録ください。 <http://www.japia.or.jp>

日刊自動車新聞 NEWSダイジェスト 8 9 10月

▶▶日刊自動車新聞の主要ニュースから部品業界の動きを追う

※()内の数字は掲載日付

行政・団体

8月.....

■経産省、車体課税抜本見直し 来年度実施求める(26日)

経済産業省は、来年度の税制改正で車体課税の抜本的見直しを求める方針を明らかにした。

■自動運転活用へ規制改革、経産省が行程表(31日)

経済産業省は、第4次産業革命の進展を後押しする規制改革に着手する。

9月.....

■経産省の概算要求、自動走行技術開発に重点、引き続き車体課税見直し(1日)

経済産業省は、総額1兆4457億円の2017年度概算要求案をまとめた。

■国土交通省、三菱自を立ち入り検査 燃費不正で3度目(3日)

国土交通省は、三菱自動車の本社と名古屋製作所へ立ち入り検査に入った。一連の燃費不正で同社を立ち入り検査するのは3回目だ。

■車体課税軽減に逆風、燃費不正で業界に不信感(5日)

車体課税の軽減要望に逆風が吹いている。

■経産省、ロシアと覚書署名 中小企業支援で(7日)

経済産業省はこのほど、ロシアの経済発展省と中小企業による貿

易や投資を促す基盤(プラットフォーム)の創設について、覚書に署名した。

■植物由来の新素材実用化、開発省庁の動き活発(10日)

植物繊維から製造する新素材「セルロースナノファイバー(CNF)」の実用化に向け、関係省庁の動きが活発になっている。

■経産省、自動運転などの実証実験通じ規制見直し(15日)

経済産業省は、自動運転などモビリティ分野の規制改革に向けた計画案をまとめた。

■下請け取引環境改善へ、経産省・自工会が懇談会(16日)

経済産業省と日本自動車工業会(自工会)は15日、都内のホテルで懇談会を開催した。

■自工会、対サプライヤー 取引慣行の適正化へ 年内に自主行動計画(16日)

日本自動車工業会、中小企業の賃金引き上げを促すため、サプライヤーなどとの取引慣行の適正化に向け、自主行動計画の大幅な年内にまとめる方針を明らかにした。

■国土交通省、燃費値改ざん再発防止策公表(17日)

国土交通省は、燃費値の改ざんなどメーカーによる不正行為の再発防止策を公表。

■全トヨタ労連、引き続き格差是正に重点(20日)

全トヨタ労連(佐々木龍也会長)の第45回定期大会が16日、名古屋市内で始まり、第27期(9月~2017年8月)の運動方針を審議し17日に決定した。

■TPP承認、日米国内で暗雲 気をもむ自動車業界(21日)

足かけ5年ものマラソン交渉で合意にこぎ着けた環太平洋経済連携協定(TPP)の先行きが日米の都合で怪しくなってきた。

■自工会、福祉車税制の見直し要望 業界負担年数10億円(26日)

日本自動車工業会は消費税が免除されている福祉車両の税制を見直すよう政府・与党に求める。

■IoTで日米独連携 関係団体共同で国際標準作り(28日)

IoT(モノのインターネット)で日米の関係団体が連携する方針が明らかになった。

■国土交通省、排ガスや燃費不正防止へ 販売済み車の調査体制確立(30日)

国土交通省は、販売済み車両の排ガスや燃費性能を調べる体制を確立する。

10月.....

■公取協、グローバル化に対応 15年度の年次報告書公表(1日)

公正取引委員会は、2015年度の年次報告書をこのほど公表した。

■経産省、中小の業績改善後押し 来春にも政策パッケージ(7日)

経済産業省は、中小・零細(小規模)企業の業績改善を後押しする政策パッケージを来春にもまとめる考えを明らかにした。

■部工会、下請取引適正化へ自主行動計画(7日)

日本自動車部品工業会(部工会)の志藤昭彦会長は6日に行われた世耕弘成経済産業大臣との懇談会で、下請け企業との取引条

クローズアップ

全日本学生フォーミュラ、最多106チームが熱戦 京都工芸繊維大が2度目の総合V

自動車技術会(自技会、松本宜之会長=ホンダ取締役専務執行役員)は6~10日の5日間、静岡県的小笠山総合運動公園(掛川市、袋井市)で「第14回全日本学生フォーミュラ大会」を開催した。競技の結果、京都工芸繊維大学が2度目の総合優秀賞に輝いた。2位は横浜国立大学、3位は名古屋工業大学だった。(9月13日付)



NOK
www.nok.co.jp

Always, Everywhere

NOK株式会社

〒105-8585 東京都港区芝大門1丁目12番15号

件の適正化に向けた自主行動計画を策定することを表明した。

■国交省、[接近通報] 18年3月から義務付け 保安基準改正(8日)

国土交通省は、暗くなると自動点灯する「オートライト」や電動系エコカー向け「車両接近通報装置」を義務づける道路運送車両の改正保安基準を発表した。

■国交省、燃費値をより実態に近く カタログ値とのかい離原因調査に着手(12日)

国土交通省は、カタログ上の燃費値と実際に走った時の燃費値の違いについて、詳細な原因調査を始める。

■グレーゾーン解消／企業実証特例制度、自動車分野も活用進む(14日)

経済産業省は、産業競争力強化法に基づく「グレーゾーン解消制度」と「企業実証特例制度」の受理件数をまとめた。

■トヨタ労組「グループ内の底上げ不十分」、来春闘要求 社会性踏まえ検討(18日)

トヨタ自動車労働組合(組合員6万8000人)は愛知県豊田市で第83回定期大会を開いた。

■政府、下請の取引環境改善 現金や手形支払い期間短縮(20日)

政府は、取引環境の改善に向け、下請企業への代金をできるだけ現金で支払うよう親事業者に求めることや、手形取引の支払期日を短くするなどの取り組みを進める。

■タカタ製エアバッグ改修率、9月末で63%(20日)

国土交通省は、タカタ製エアバッグインフレーター(膨張装置)のリコール(回収・無償修理)進捗状況を公表した。

■経産省、新たなJIS規格7件制定(24日)

経済産業省は、新たな日本工業規格(JIS規格)を7件制定した。

国内

8月.....

■豊田合成、LED生産、佐賀は9月末で終了 平和町と子会社に集約(31日)

豊田合成は佐賀工場(佐賀県武雄市)でのLED生産を9月末までに終了し、LED生産を平和町工場(愛知県稲沢市)と子会社TSオプト(千葉県市原市)に集約する。

9月.....

■アマネク・テレマティクスデザイン、1kmメッシュ単位で気象警戒予測(6日)

アマネク・テレマティクスデザインは、車向けデジタルラジオ「アマネクチャンネル」内で、1kmメッシュ単位の気象警戒予測情報の放送を開始。

■ルネサス、マイコン共同開発で台湾大手と協業(8日)

ルネサスエレクトロニクスは、半導体受託生産最大手の台湾積体回路製造(TSMC)と、次世代エコカーや自動運転車向けに28ナノメートルプロセスを採用したマイコンを共同開発することで合意した。

■ホンダ、新たに67万台対象 タカタ製部品でリコール(9日)

ホンダは、タカタ製エアバッグ用インフレーター(膨張装置)の新たなリコール(回収・無償修理)を国土交通省に届け出た。

■富士通テン、デンソーが筆頭株主に(10日)

デンソー、トヨタ自動車、富士通は、カーナビメーカーの富士通テン(山中明社長、神戸市兵庫区)の資本構成を変更し、デンソーが51%を出資し筆頭株主になる方向で検討することに基本合意した。

■ルネサス、インターシル買収 車載半導体でトップシェア奪回へ(14日)

ルネサスエレクトロニクスは、米半導体のインターシルコーポレーションを約32億1900万ドル(約3219億円)で買収する。

■クラレなど3社、タイ合併を検討 プタジエン誘導品製造(15日)

クラレは、タイの石油化学製品大手PTTグローバルケミカル(PTTGC)、住友商事と3社共同で自動車部品の材料などに使われるプタジエン誘導品の合併事業に向けて具体的な検討に入ることと合意した。

■サンデン、国内対象に200人の希望退職者を募集(26日)

サンデンホールディングスは希望退職者を募集する。

■NTTコムとNCS、AI活用し危険運転自動検出(27日)

NTTコミュニケーションズと日本カーソリューションズ(NCS)は、人工知能(AI)を活用した危険運転の自動検出に成功した。

■日産自動車、マイクロソフトと次世代コネクテッドサービスで提携(28日)

日産自動車は、米マイクロソフトと次世代コネクテッドサービスに関する技術開発の提携を締結した。

■ユーシン、GMとのロックセット訴訟で和解(29日)

ユーシンは、米ゼネラルモーターズ(GM)との間でロックセットの不具合に関する賠償問題に関して、1590万ドル(約17億円)を支払うことで合意、和解した。

■日産、日系で唯一選定 サステナビリティ企業活動評価指標(30日)

日産自動車は、サステナビリティ(持続可能性)分野の企業活動を評価する指標「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス(DJSI)」で、今年の「ワールド・インデックス」の構成銘柄に、同社が日系自動車企業として唯一選定された。

10月.....

■ミネベア、岩崎電気と資本業務提携(1日)

ミネベアは岩崎電気と資本業務提携することで合意した。

■村田製作所、指月電機と合併 フィルムコンデンサ開発(4日)

村田製作所は指月電機製作所と資本・業務提携を締結することで合意。

■シーテックジャパン開幕、HMIや自動運転 先端技術を幅広く(5日)

CPS(サイバーフィジカルシステム) / IoT(モノのインターネット)総合展示会「シーテックジャパン2016」が幕張メッセ(千葉市美浜区)で開幕。

■ジャパンディスプレイ、自動車用曲面液晶ディスプレイ開発(5日)

ジャパンディスプレイは、自動車用に12.3型曲面液晶ディスプレイを開発し、サンプル出荷を開始した。

■二輪事業で“異越同舟” ヤマハ発とホンダ、原付一種で提携(6日)

二輪車メーカー最大手のホンダとヤマハ発動機は、国内向け排気量50cc以下の原付一種領域で協業に向けた検討を開始した。

■米NVIDIA、トムトムと自動運転車用地図共同開発(6日)

米NVIDIAは、オランダのカーナビゲーションメーカーのトムトムと自動運転車向けのマッピングシステムを共同開発する。

■栗本鐵工所、耐熱性1千度の鋳造用マグネシウム合金実用化へ(12日)

鉄鋼・鋳鋼製品などを手がける栗本鐵工所は、2020年をめどに、自動車部品の軽量化材料として鋳造用難燃耐熱マグネシウム合金の開発・実用化に乗り出す。

■トヨタ・スズキが業務提携 次世代技術で連携強化(13日)

トヨタ自動車とスズキは業務提携に向けた検討を始めると発表した。環境、安全、情報技術の分野で連携を強化する。

■ルネサス、V2X分野で豪州コダと協業(14日)

ルネサスエレクトロニクスは、車車間・路車間通信(V2X)とコネクテッドオートノマスビークル(CAV)市場向けのソフトウェアを手掛けるオーストラリアのコダ・ワイヤレスと、自動運転に向けたV2X分野で協業する。

■積水化成、ヤマキユウを傘下に(15日)

積水化成工業はトラック用樹脂部品をメインとするヤマキユウ(黒江文男社長、東京都立川市)を買収した。

■ホンダ、次期軽シリーズ開発で設計前からサプライヤーと協力(17日)

ホンダは次期軽自動車シリーズの開発で、設計図面を描く前の開発初期の段階から、サプライヤーと協力して最適な設計を行う手法を全面的に導入する。

■デンソーと東芝、高精度画像認識システム向けAI技術を共同開発(18日)

デンソーと東芝は車載用画像認識システム向けの人工知能技術を共同開発することで基本合意した。

■アイシン精機、グループ会社の事故受け 現実とのかい離を調査(18日)

アイシン精機は、アドヴィックスや愛知技研などグループ会社の製造ラインで爆発事故が相次いだのを受け、災害防止に向けた取り組みを開始した。

■三菱自動車、日産が筆頭株主に (21日)

三菱自動車は日産自動車から2370億円の出資が完了し、日産が発行済み株式の34%を保有する筆頭株主になった。

■主要サプライヤー、三菱自 日産グループ入りで期待と不安(22日)

三菱自動車がルノー・日産自動車グループ入りしたことで、三菱自を主要納入先とするサプライヤーは、期待と不安が入り混じっている。

■ニチリン、仏メーカーとの合併を連結子会社に (24日)

ニチリンは、自動車部品メーカーの仏ハッチンソンとの合併会社のハッチンソン ニチリン プレーキホーシース (HNBH) を連結子会社化した。

■豊田合成、復元しやすいゴム (25日)

豊田合成は高温で長時間、力を加えても形状が復元しやすいゴムの材料技術を確立した。

海外

8月.....

■ベロダイン・ライダー、フォードと中国IT企業から投資を受ける (30日)

LiDAR (ライダー) 関連技術を手がける米ベロダイン・ライダーは、米フォード・モーターと中国のIT大手バйдゥ (百度) から総額1億5千万ドル (約150億円) の投資を受けた。

■日立AMS、米で司法取引 ショックアブソーバー販売カルテルで (30日)

日立オートモティブシステムズは、一部顧客向けのショックアブソーバーの販売に関して、価格カルテルを結んでいた米独占禁止法に違反した件で、米司法省と司法取引契約を締結した。

9月.....

■三井物産、ゲスタンプに資本参加 前世界で需要開拓 (13日)

三井物産は、スペインの世界最大手自動車プレス部品メーカーのゲスタンプ・オートモション (GA) に資本参加することで合意した。

■帝人、米複合材料成形メーカー買収 北米地域の受注拡大 (14日)

帝人は、米国の複合材料成形メーカーであるコンチネンタル・ストラクチャル・プラスチック (CSP) を、12月をめどに買収する。

■住友電工、米大手焼結部品メーカーを買収 米で販路拡大へ (15日)

住友電気工業は米大手焼結部品メーカーのキーストーンパウダー

ドメタルカンパニーを買収する。

■独企業、スマホを鍵代わりに車始動するサービス開始 (20日)

キーシステムなどを手がける独ハフ・セキュア・モバイルは、スマートフォン (スマホ) を鍵代わりにエンジンの始動ができるサービスを10月にも開始する。

■ヴァレオ、バーチャルキーのセキュリティ確保へジェムアルトと提携 (28日)

仏ヴァレオは、開発しているバーチャルキーシステム「ヴァレオインブルー」でのセキュリティ確保に向けてデジタルセキュリティを手がけるジェムアルトとパートナーシップを結んだ。

■アルファ、反トラスト法違反で米司法省と合意 (30日)

アルファは、特定顧客向けに供給したドアハンドル、キーセット、ステアリングコラムロックの一部取引に関して米国反トラスト法に違反したとして米国司法省との間で罰金900万ドル (約9億円) を支払う司法取引で合意した。

10月.....

■米NVIDIA、車載用AIスーパーコンピューター SoC発表 (13日)

米NVIDIAは、都内で開催したDPU (グラフィックスプロセッシングユニット) の技術イベント「GTC (GPUテクノロジーカンファレンス) ジャパン2016」で、自動運転車向けに設計した人工知能 (AI) スーパーコンピューター SoC (システム・オン・チップ) の「エグゼビア」を発表。

■伊アルカンターラ、20年めど原料完全バイオ化 (20日)

伊アルカンターラは自動車向け内装材などに使用する化学原料の全量を2020年までに再生可能資源に置き換える。

市場

8月.....

■1~6月HV世界販売、トヨタ2年ぶり増 ホンダ2年連続減 (29日)

トヨタ自動車とホンダの2016年上期 (1~6月) のハイブリッド車 (HV) 世界販売台数がまとまった。

9月.....

■日本自動車工業会、今年度の新車需要見通し 40万台の下方修正 (16日)

日本自動車工業会は、2016年度の国内需要見通しを当初見通しの525万8400台から約40万台減の484万5200台に下方修正した。

10月.....

■HV販売が過去最高 上期50万台の台突破 (13日)

軽自動車市場の縮小傾向が続く中、国内市場でハイブリッド車 (HV) の存在感が高まっている

記者の目

LiBの高性能化と高まるリスク

電気自動車 (EV) やハイブリッド車 (HV) に搭載されるリチウムイオン電池 (LiB) の大容量化が進み、自動車メーカー各社が新型EV / HVの航続距離を延ばしている。今後はLiBの更なる高性能化に伴い、安全性の確保が最も重要な課題になる可能性が高い。

スマートフォン (スマホ) 業界では、サムスン電子が「ギャラクシーノート7」のバッテリー発火問題を受け、発売から2カ月足らずで製造を中止する事態となった。2016年7~9月期の連結営業利益を大幅に下方修正したほか、10月以降のマイナス影響も予想される。スマホ用のLiBは車載電池とは比較できないほど容量が小さ

いとは言え、わずか数十グラムで高性能化を図ることが、いかに難しいのかを想像できる。

もちろん、車載用も「対岸の火事」ではない。最近ではエネルギー密度に優れたNMC (ニッケル・マンガン・コバルト) 系の正極材などが多く使われるようになったが、ハイスpekク化すれば発火や漏電に対するリスクも高まるのが電池の宿命だ。スマホとは違い、トラブルが人命に大きく関わるという実情もある。それだけに、「車載用LiB=安全な日本製」という選択意識がグローバルに広がることを期待したい。(T)



このダイジェストは8月26日~10月25日まで日刊自動車新聞に掲載した主要な部品関連の記事を抜粋。詳しくは日刊自動車新聞電子版・<http://www.netdenjd.com/> (有料・月額3,500円) で読めます。

指標・統計

■自動車の生産・販売・輸出（自工会調）

1. 四輪車の生産実績

（単位：台）

	2016. 6月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2016. 7月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	679,643	93.4	3,818,162	88.4	689,450	91.0	4,507,612	88.8
普 通 車	447,176	110.6	2,404,927	101.5	444,663	101.9	2,849,590	101.6
小 型 四 輪 車	145,353	92.8	774,464	82.5	145,963	90.8	920,427	83.7
軽 四 輪 車	87,114	52.2	638,771	63.1	98,824	61.6	737,595	62.9
ト ラ ッ ク	112,828	95.9	613,626	90.6	105,568	85.6	719,194	89.8
バ ス	11,828	97.0	62,893	91.6	12,229	86.9	75,122	90.8
合 計	804,299	93.8	4,494,681	88.7	807,247	90.2	5,301,928	88.9

2. 四輪車の国内販売実績

（単位：台）

	2016. 6月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2016. 7月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	344,324	90.8	2,132,655	83.1	348,162	89.0	2,480,817	83.9
普 通 車	135,335	122.5	767,281	98.4	123,693	104.9	890,974	99.2
小 型 四 輪 車	112,966	95.3	656,060	84.7	120,522	90.7	776,582	85.6
軽 四 輪 車	96,023	63.9	709,314	70.1	103,947	73.9	813,261	70.6
ト ラ ッ ク	75,488	104.1	406,745	93.9	66,167	97.5	472,912	94.4
バ ス	1,099	137.9	7,950	130.8	1,276	124.4	9,226	129.9
合 計	420,911	93.0	2,547,350	84.7	415,605	90.3	2,962,955	85.5

3. 四輪車の輸出実績

（単位：台）

	2016. 6月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2016. 7月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	359,097	105.7	1,924,972	103.0	368,320	103.7	2,293,292	103.1
普 通 車	336,598	106.4	1,808,594	104.0	345,763	104.1	2,154,357	104.0
小 型 四 輪 車	21,975	93.1	113,543	88.2	22,126	96.6	135,669	89.4
軽 四 輪 車	524	1343.6	2,835	195.1	431	532.1	3,266	212.9
ト ラ ッ ク	36,284	89.2	201,444	87.1	33,263	76.8	234,707	85.5
バ ス	12,698	122.9	62,446	93.4	12,036	76.7	74,482	90.3
合 計	408,079	104.4	2,188,862	101.0	413,619	99.8	2,602,481	100.8

■自動車部品の生産・輸出・輸入

1. 自動車部品の生産（経済産業省「生産動態統計」）

（単位：百万円）

		2016. 6月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2016. 7月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
総括	自動車部品 41品目	558,995	102.1	3,109,910	99.4	556,280	97.4	3,666,190	99.1
	関連自動車部品 9品目	118,164	108.4	670,712	105.2	118,184	98.2	788,896	104.1
	内燃機関電装品 5品目	34,015	96.0	193,387	95.9	32,152	87.3	225,539	94.6
	二輪車部品 4品目	5,009	88.4	31,946	91.5	5,068	79.9	37,014	89.7
	合 計	716,183	102.6	4,005,955	100.1	711,684	96.9	4,717,639	99.6

指標・統計

			2016. 6月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2016. 7月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)
自動車部品 (41品目)	1	ピストン	3,475	96.0	19,752	97.4	3,491	91.5	23,243	96.5
	2	ピストンリング	3,716	100.0	20,644	99.3	3,629	98.1	24,273	99.1
	3	シリンダーライナ	1,634	90.4	9,829	97.0	1,547	88.7	11,376	95.8
	4	吸気弁及び排気弁	3,638	107.1	20,374	105.2	3,278	92.3	23,652	103.2
	5	ガスケット	2,431	98.9	14,128	98.8	2,359	93.5	16,487	98.0
	6	燃料ポンプ	1,366	78.8	8,689	83.3	1,374	81.6	10,063	83.1
	7	空気清浄器	2,626	117.6	12,493	94.9	1,979	86.6	14,472	93.7
	8	油清浄器	1,856	98.7	10,784	99.4	1,765	90.7	12,549	98.0
	9	油ポンプ	2,561	115.6	14,589	105.7	2,537	110.8	17,126	106.4
	10	水ポンプ	2,145	90.6	12,231	86.7	2,122	84.2	14,353	86.3
	11	ラジエータ	14,883	95.9	84,427	92.6	14,676	93.2	99,103	92.7
	12	クラッチ装置	5,358	78.4	32,958	98.9	5,111	73.0	38,069	94.4
	13	自動変速装置	189,249	102.6	1,050,647	99.5	187,724	97.3	1,238,371	99.2
	14	ユニバーサルジョイント	3,359	100.1	18,170	93.0	3,219	96.4	21,389	93.5
	15	プロペラシャフト	4,828	105.6	26,847	99.8	4,998	101.7	31,845	100.1
	16	車輪	8,084	94.4	48,418	101.4	8,066	89.3	56,484	99.5
	17	かじ取りハンドル	3,161	102.7	17,233	78.4	3,220	98.7	20,453	81.0
	18	ショックアブソーバ	11,319	31.2	65,459	73.7	11,261	100.5	76,720	76.7
	19	ブレーキ倍力装置	2,241	20.5	12,980	57.2	2,290	79.7	15,270	59.7
	20	ブレーキシリンダ	4,180	154.0	22,148	106.2	4,102	105.5	26,250	106.1
	21	ブレーキパイプ	2,822	74.4	16,226	89.6	2,683	90.5	18,909	89.7
	22	ブレーキシュー	2,725	94.2	15,775	97.6	2,672	86.2	18,447	95.8
	23	燃料タンク	7,428	262.2	41,592	111.1	7,533	101.0	49,125	109.5
	24	排気管及び消音器	30,013	412.9	168,312	121.6	29,669	100.0	197,981	117.8
	25	窓わく	2,807	9.6	14,717	34.9	2,831	85.8	17,548	38.6
	26	ドアヒンジ・ハンドル・ロック	7,339	240.2	40,759	106.6	7,056	97.7	47,815	105.2
	27	窓ガラス開閉装置	4,409	63.2	24,983	87.3	3,811	74.8	28,794	85.4
	28	シート	75,466	1538.9	350,688	101.9	77,506	99.6	428,194	101.5
	29	スイッチ類	15,361	20.9	81,968	58.3	15,514	108.4	97,482	62.9
	30	計器類	12,231	90.7	68,043	103.2	12,202	97.3	80,245	102.3
	31	窓ふき	6,985	58.2	40,750	87.3	6,974	92.2	47,724	88.0
	32	警音器	1,465	20.2	8,661	62.2	1,416	96.7	10,077	65.4
	33	暖房装置	6,437	456.8	35,527	83.5	6,285	69.1	41,812	81.0
	34	電子式ブレーキ制御装置	20,530	227.0	98,146	117.7	20,304	116.3	118,450	117.4
	35	シートベルト	7,772	47.1	105,054	197.9	7,832	103.1	112,886	186.1
	36	エアバッグモジュール	7,782	104.7	43,331	103.6	8,744	124.5	52,075	106.6
	37	気化器・燃料噴射装置	22,133	358.9	130,822	114.4	21,904	96.1	152,726	111.4
	38	ステアリング装置・タイロッド・タイロッドエンド	37,403	166.7	210,176	108.2	37,187	98.4	247,363	106.6
	39	軸受メタル	3,972	98.0	23,493	100.8	3,845	92.6	27,338	99.6
	40	ブッシュ	2,842	94.6	16,239	96.2	2,763	88.6	19,002	95.0
	41	オイルシール	8,963	98.9	51,848	99.8	8,801	93.1	60,649	98.7
		合 計	558,995	102.1	3,109,910	99.4	556,280	97.4	3,666,190	99.1
関連自動車 部品 (9品目)	1	自動車用蓄電池	8,477	92.4	49,134	97.1	7,866	81.1	57,000	94.5
	2	かさね板ばね	2,221	89.2	12,421	86.9	2,251	84.9	14,672	86.6
	3	つるまきばね	1,683	94.5	10,001	97.7	1,783	92.7	11,784	96.9
	4	線ばね	5,109	105.3	28,581	101.8	4,783	92.4	33,364	100.3
	5	カークーラー	26,950	103.8	147,709	100.0	26,857	98.0	174,566	99.7
	6	自動車用器具	37,698	125.3	213,022	113.8	38,650	110.5	251,672	113.3
	7	自動車用電球	798	82.3	4,495	80.9	797	76.9	5,292	80.3
	8	カーオーディオ	4,990	108.4	30,098	139.2	4,742	81.0	34,840	126.8
	9	カーナビゲーションシステム	30,238	103.8	175,251	101.8	30,455	96.1	205,706	100.9
		合 計	118,164	108.4	670,712	105.2	118,184	98.2	788,896	104.1

			2016. 6月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2016. 7月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
内燃機関電 装品 (5品目)	1	ダイナモ	6,949	93.8	40,899	100.8	6,513	82.0	47,412	97.7
	2	スタータ	8,146	92.6	46,289	95.3	7,774	86.1	54,063	93.9
	3	ディストリビュータ	475	79.0	2,860	78.0	476	71.9	3,336	77.1
	4	イグニッションコイル	7,798	102.6	43,475	105.2	7,590	93.9	51,065	103.4
	5	プラグ	10,647	96.5	59,864	88.7	9,799	88.1	69,663	88.6
		合 計	34,015	96.0	193,387	95.9	32,152	87.3	225,539	94.6
二輪自動車 部品 (4品目)	1	気化器	851	107.6	4,762	98.1	747	87.4	5,509	96.5
	2	ショックアブソーバ	1,859	95.7	11,851	93.0	2,008	96.0	13,859	93.4
	3	計器類	872	87.3	5,361	84.3	859	74.4	6,220	82.8
	4	ブレーキ装置	1,427	73.8	9,972	91.0	1,454	64.9	11,426	86.5
		合 計	5,009	88.4	31,946	91.5	5,068	79.9	37,014	89.7

(注)：経済産業省「生産動態統計」の見直しにより

①平成21年1月より／「自動車用蓄電池」を「自動車用蓄電池（二輪自動車用を除く）」に変更。

②平成23年1月より／「オレオ（ショックアブソーバを含む）」を「ショックアブソーバ」に変更。

③平成26年1月より／品目の掲載順序を一部変更。

④平成26年1月より／「エアバッグモジュール」の定義を変更。

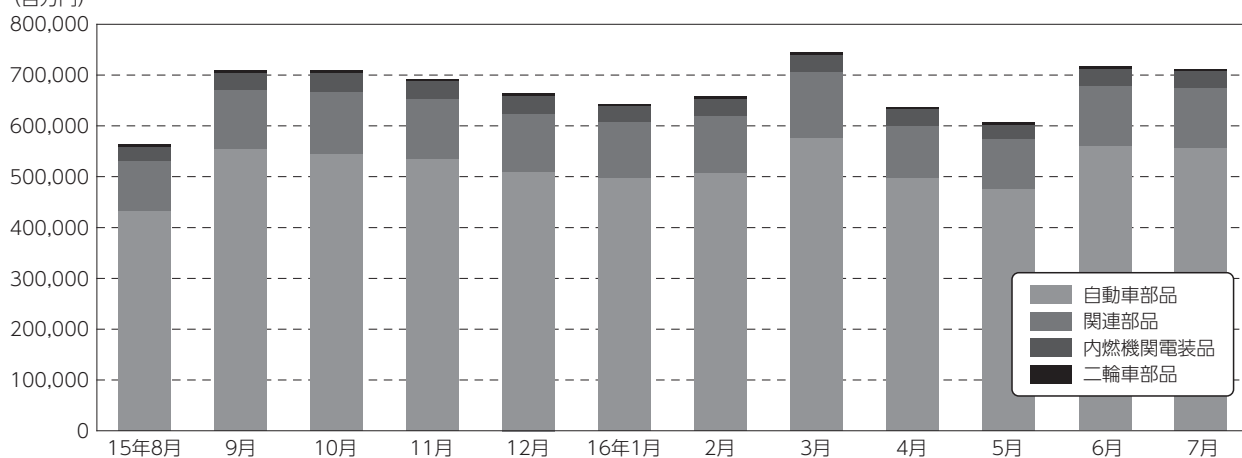
そのため、発生年月以前の数値と発生年月以降の数値をそのまま比較出来ません。

接続係数を前年の数値に乗じて、当月の数値と接続して前年比を算出しています。

⑤平成26年1月より／「オイルシール」の生産額の掲載が廃止になったため、「オイルシール」のみ販売額を計上しています。

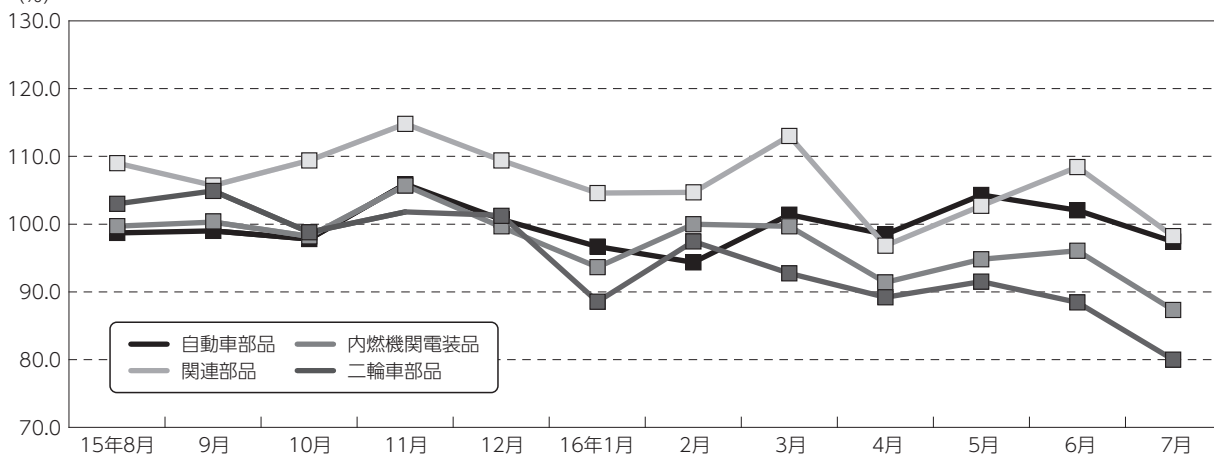
■最近12ヶ月の自動車部品の生産推移

(百万円)



■自動車部品生産の対前年同月比の状況

(%)



JAPIA NEWS

2016
11・12
隔月刊

一般社団法人 日本自動車部品工業会

(通巻716号)

目次

- 08 巻頭言
副会長・角堂 博茂
- 10 **特集** 新たな出会いの場を造る
部品メーカーから見た
学生フォーミュラ
- 16 **会員企業紹介**
豊和繊維工業株式会社
- 18 **連載 DBJ 経済ワンポイント解説 Vol.12**
海外経済の下振れリスクに伴う
円高進行に留意
日本政策投資銀行
- 20 工業会業務レポート・スケジュール
- 25 北米事務所だより Vol.121
- 26 支部活動レポート
中部支部視察報告 環境部会
- 28 **連載 企業の海外危機管理講座 Vol.4**
海外危機対応に関する企業の安全配慮義務
安全サポート株式会社
- 30 日刊自動車新聞 NEWSダイジェスト
- 33 指標・統計

平成28年11月15日発行
(隔月1回15日発行)

■発行所

一般社団法人
日本自動車部品工業会
〒108-0074
東京都港区高輪1-16-15
電話 03-3445-4212
FAX 03-3447-5372

■編集

日刊自動車新聞社
〒105-0012
東京都港区芝大門1-10-11
芝大門センタービル3階
電話 03-5777-2351(代表)

■価格(消費税・送料別)

1部1,000円

JAPIA会員企業様向け
最新のセミナーの案内や情報等は…

www.lapj.co.jp まで

ISO教育コンサルティング
株式会社エルエーピー

LAP ISO
Lead Auditor Project Team



〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 TEL:03-5114-2930 Email: iso@lapj.co.jp

どこでも 見られる 使える 電子版!

日刊自動車新聞 新 電子版

パソコンやスマホでニュースをチェック!

新聞紙面の記事はもちろん、ウェブならではの速報対応で、
業界動向をリアルタイムでお伝えします。

電子版でしか読めないコンテンツが満載。

気軽に使える情報ツールとしてお役立てください。

外出時や出張先、
海外でもご利用OK!

外出先や海外でも、ちょっとした
空き時間を利用して気になる記事
をチェックできます。

速報
機能



ウェブ
限定記事

過去の記事もすぐに探せる!
バックナンバー検索

全文検索機能でキーワードからの
記事検索もラクラク。期間を指定
しての検索もできます。

過去の記事
2013年
2012年
2011年
2010年

これでビジネスの幅が
広がります!

社内では新聞本紙、
外出先では電子版、
使い分けると便利だな!

あつ
これは
便利だ!

無料のお試し購読はこちらから

日刊自動車新聞 電子版

検索

<http://www.netdenjd.com/>

購読の申し込み・お問い合わせ

日刊自動車新聞社

販売推進部

〒105-0012 東京都港区芝大門1-10-11

芝大門センタービル3階

TEL: 03-5777-2318

FAX: 03-5777-2319

E-mail: hanbai@njd.jp

「企業は人」 材育成

環境が変化しても

長し続ける

人材を育てる

人材育成制度

037 社

目標設定研修

075 回

評価者能力研修

540 回

昇格者選抜評価

143 回

人事・人材開発支援の

主な実績企業

アイシン・エーアイ株式会社
アイシン化工株式会社
アイシン機工株式会社
アイシン軽金属株式会社
アイシン・コムクルーズ株式会社
株式会社アイシン・コラボ
アイシン精機株式会社
アイシン辰栄株式会社
アイシン高丘株式会社
NTN 株式会社
株式会社キャタラー
埼玉工業株式会社
株式会社ソミック石川
津田工業株式会社
株式会社デンソーエアシステムズ
株式会社デンソーセールス
デンソーテクノ株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社豊田自動織機
浜名湖電装株式会社
浜名部品工業株式会社
豊生ブレーキ工業株式会社
マブチモーター株式会社 他 (50 音順)

株式会社シナジーパワー

愛知県名古屋市中区丸の内 1-17-19 キリックス丸の内ビル 8F
TEL 052-204-4780 FAX 052-204-4700 〒460-0002
E-MAIL info@synergy-power.co.jp

日本から中国へ、中国から日本へ、
航空貨物より速く、
クーリエよりも速く貨物を運びたい…

日本 中国間

同日即配！通関業務もお任せ下さい！

最速

安心、確実、丁寧な
ハンドキャリーで
皆様のご要望に答えます。

TEL : 03-5651-5685 Mail : info@foryouexpress.jp
FAX : 03-3661-8170 URL : http://foryouexpress.jp/

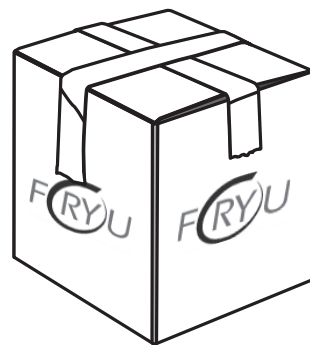
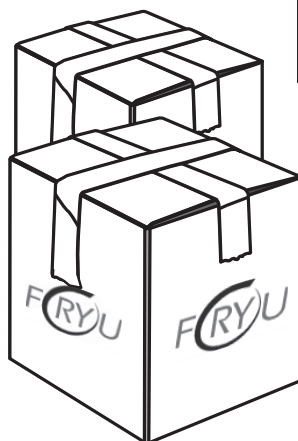


フォーユーエクスプレス

検索

定期便ご利用なら、
¥10,000 より

フォーユーエクスプレス



自分の限界を 自分で決めるな。

トヨタ紡織は常に挑戦を続けてきた。

「快適」という数値化の困難な課題に対して、
運転時の揺れや振動の再現、
シートにかかる圧力の分布を計測することで、
“乗り心地”を科学的に分析し、日々あくなき追究を重ねている。

わたしたちが恐れているのは、
「できない」と思いこんで、これからの成長の芽を摘んでしまうこと。
不可能と思った瞬間に、人は思考をやめてしまうものだ。
「どうすればできる？」 そう問い直してみるだけで、
目の前に立ちはだかっていた壁は、超えるべきハードルへと姿を変える。
次の瞬間には、きっとあなた自身がそのハードルの超え方を模索し始めている。

トヨタ紡織にとっての次のハードルは、乗り物の種類という領域を超えること。
どんな乗り物でも、トヨタ紡織の「快適な乗り心地」を体感してもらうには、何ができるか。

トヨタ紡織の「快適な乗り心地」に関する技術への挑戦に、限界はない。

トヨタ紡織が生み出す製品は、様々な領域に広がっています。



シート



ドアトリム



エアクリーナー



ハイブリッドシステム用
モーターコア構成部品



北陸新幹線グランクラス搭載シート



航空機シート



地球を舞台にしたスポーツは、
自分勝手なルールではゴールできない。

デンソーは、この惑星を走るランナーとして
環境技術を進化させる。

地球とクルマの調和のために。

ホ シ
この惑星を技術で守りたい。

DENSO